

第十二章 時局後ニ於ケル新重要鑛山ノ概況

時局以來產額増進シ新ニ重要鑛山タル資格ニ達シタル鑛山ニ付テハ漸次其調査ヲ進メツツアルモ本書編纂期迄ニ調査ヲ爲シタルモノニ就キ茲ニ其梗概ヲ錄シ以テ參考ニ資スヘシ

備考

一、茲ニ重要鑛山ト稱スルハ其產額左ノ標準ニ該當スルモノヲ云フ

金 一箇年製出高 五貫以上アルモノ 石油 一箇年產出高 一萬石以上アルモノ

銀 同 百貫以上アルモノ 硫黃 一箇年製出高 百萬斤以上アルモノ

銅 同 十萬斤以上アルモノ 其他鑛產物ニシテ一箇年鑛產價額三萬圓以上アルモノ

石炭 一箇年產出高 五萬佛噸以上アルモノ

二種以上ノ鑛產物アルモノニシテ其主要產物ノ產額前記各號ノ一ニ達セサルモ其他ノ鑛產物ノ價額ヲ合算シテ三萬圓以上アルモノ

製鍊ヲ爲ササル鑛山ニ付テハ採掘鑛石ノ品位ニ依リ算出シ其含有量ノ前記各號ノ一ニ該當スルモノ

二、附圖ハ鑛區圖ニ基キ作製シタルニ依リ地形ト實地ト多少符合セサル點ナキニアラス

吉野鑛山 (大正六年十月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ山形縣東置賜郡吉野村ニアリ即チ奥羽線上ノ山驛ヨリ南西南三里此間山路ニシテ車馬通セサルナリ又別路赤湯驛ヨリセハ長井線ニテ宮内町ニ出テ此レヨリ北方三里半アリ其内三里ノ間ハ道路不良ナルモ車馬ヲ通シ得ヘシ目下鑛石ハ鐵索ニテ悉ク之ヲ上ノ山驛ニ出タセリ其延長四八哩最大運搬力一日三萬貫ナリ其内銅鑛ハ茨城縣日立鑛山ニ送り又亞鉛鑛ハ兵庫縣家島製鍊所ニ送レリ

本山ハ明治二十九年ノ發見ニシテ其後銀或ハ銅ノ製鍊ヲナシ三十九年以後一時亞鉛鑛トシテ探掘シ四十一年以後休山セシカ大正四年九月現鑛業權者久原鑛業株式會社之ヲ讓受ケ爾來事業著著進歩シ目下使役人六百七十六名内坑夫百五十二名ナリ
次ニ從來ノ產額ヲ掲クレハ左ノ如シ

年次	數量(貫)	品位		
		金(%)	銀(%)	銅(%)
大正四年(九月ヨリ十二月迄)	四〇、五五	0.0001	0.0003	三
同 五 年 度	九七、四六	0.0001	0.0008	三
同 六 年(一月ヨリ六月迄)	一、五七、三六	0.0001	0.0104	二八

又亞鉛鑛ハ

年次	數量	量(貫)	亞鉛(%)
大正四年(九月ヨリ十二月迄)		三、四〇〇	四〇八
同 五 年 度		四七、二四八	三九二
同 六 年(一月ヨリ六月迄)		二九、八七〇	三六九

鑛區ハ探登一一號一二號一三號鑛種金銀銅鉛亞鉛ニシテ其坪數合計四十三萬六千二百〇八坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層石炭租面岩及安山岩ヨリ成ル(地質圖參照)

第三紀層ハ凝灰岩凝灰質泥板岩及混板岩ヨリ成リ一部分ニハ礫岩ヲ見ルコトアリ其内凝灰岩最モ發達セリ其走向ハ鑛床附近ニ於テハ北三十度東傾斜北西十五度ヲ示セリ

石英租面岩ハ事務所附近ヨリ惠比壽露頭及大黑露頭ニ廣カル此岩石ハ白色或ハ淡綠色ニシテ一見凝灰岩ト區別シ難キコトアリ

安山岩ハ帶綠灰色ニシテ多乳質ナリ之ヲ豆腐岩ト稱セリ此岩石ハ幅廣キ一ノ岩脈ヲナセルモノニシテ其走向北三十度西ニシテ北東ニ斜下セルモノノ如シ

鑛床 鑛床ハ交代鑛床ニシテ從來稼行サレシモノハ惠比壽及大黑ノ兩鑛塊ナリシカ試錐ノ結果新ニ辨天ナル鑛塊ヲ發見セリ此等ハ豆腐岩ナル岩脈ノ上下兩磐附近ニ胚胎サレシモノノ如ク想像セラル即チ惠比壽及大黑ノ兩鑛塊ハ其下磐ニ存セルモノニシテ辨天ノ鑛塊ハ其上磐ニ當ルヘキモノト推測セラル鑛石ハ黑鑛ニシテ之ニ伴ヒテ黃鑛ト多量ノ硅鑛トヨリ成ル其大サハ惠比壽ニ於テハ長六七百間幅四五百間ニシテ東方ニ斜下セリ又大黑ニ於テハ其開坑不完全ナルモ長三百間幅二百間許ニ存在セルモノノ如シ其内硅鑛ハ大部分ヲ占ムルモノニシテ其内ノ大部分ハ石炭租面岩ヨリ變成セシモノト認メラル又黑鑛ハ一部分硅鑛中ニ玉石トナリテ出テ又一部ハ硅鑛ノ外圍ヲ包被セラル如キ狀ヲ呈セリ又鑛床ノ周縁ニハ常ニ松皮粘土ナル一粒ノ粘土ヲ伴隨セリ此粘土ハ褐色綠色及淡黃色ニテ種種ノ斑紋ヲ呈セルモノナリ

鑛床ノ上部ハ露天掘ヲ行ヘルモノニシテ此レヨリ出ツル粗鑛ハ一ヶ月約六十五萬貫其平均品位亞鉛一三銅一二乃至一三銀〇〇〇四%ナリ之ニ器械選鑛ヲ施シテ亞鉛鑛百五十噸(品位亞鉛四五%銅一%銅鑛五萬貫品位亞鉛一〇銅三五銀〇〇一金〇〇〇〇一)ヲ得ルナリ即チ其實收率一四%ニ當タ

次ニ精鑛ノ完全分析ヲ掲クレハ左ノ如シ

但シ亞鉛鑛ハ大正五年十月頃家島送りノモノ又銅鑛ハ大正六年四五及六ノ三ヶ月間ノ日立送りノ平均試料ナリ

(吉野鑛山分析)

[illegible]

酸 化 滿 俺	硫	「カ ド シ ユ ム」	計
〇		〇一三	九七七
痕跡	〇二五		九六五
痕跡	〇六一		九六四九

位置交通其他

位置交通其他 本山ハ青森縣東津輕郡一本木村大字奥平部ニアリ即チ青森市ヨリ北西北十四里奥平部ノ海岸ヨリ小溪水ヲ浜ルコト六七町海拔百五十尺ノ所ニアリ而テ青森市ヨリ七里蟹田迄ノ間ハ道路平坦ニシテ車馬容易ニ通シ得ヘシ且ツ此間ニハ森林軌道モアルヲ以テ可ナリ便ナルモ蟹田以北ノ道路ハ尙ホ海岸ニ沿ヒ平坦ナルモ不良ナルヲ以テ車馬ノ通行困難ナリ本山所産ノ鑛石ハ十噸乃至二十噸積ノ小帆船ヲ利用シ下北郡川内村ナル安部城鑛山ニ送レリ此間風位宜シケレハ五時間ニテ川内ノ海岸ニ著スル事ヲ得ヘシ而テ平均一箇月内ニ夏期ニハ五六回冬期ニハ三回ノ往復ヲナシ得ルナリト云フ

本山ハ明治十六年ノ發見ニシテ一時採鑛及製鍊ヲ試ミシモ不成績ノ爲メ放棄セリ明治四十年之ヲ
 採掘權ヲ得採鑛ヲ試ムルモノアリ其後屢鑛主ヲ變更シ大正四年八月田中銀之助之ヲ讓受ケ更ニ翌
 年一月田中鑛業株式會社ニ移セリ目下ノ使役人ハ二百名ニシテ内坑夫四十六名アリ
 從來ノ產額及ヒ其品位左ノ如シ

年次	數量(貫)	品位		
		金 (%)	銀 (%)	銅 (%)
大正四年 (九月ヨリ十二月迄)	二二,一九三	0.000六八	0.01三四	二四八五
同 五年上半期	二〇,五二二	0.001〇三	0.01四七	四二二八
同 同 下半期	四六,六三三	0.000七七	0.01四八	四五六
同 六年上半期	八九,二二六	0.000四九六	0.01〇九	三九九九
同 同 (七月ヨリ九月迄)	三四,〇一〇	0.000五五	0.01七四	二九六〇

鑛區ハ探登二八號鑛種金銀銅鉛亜鉛二十八萬六千六百五十一坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層石英粗面岩及安山岩ヨリ成ル(地質圖參照)

第三紀層ハ凝灰岩角礫凝灰岩泥板岩及砂岩ナリ而テ奥平部澤ヨリ以西ニハ泥板岩及砂岩多キモ以東ニハ凝灰岩及角礫凝灰岩發達セリ其走向一般ニ北四十五度乃至七十度西傾斜北東三十度乃至六十度ヲ示セリ然レトモ事務所附近ニ於テハ其走向北西ヨリ南東ニ走リ南西ニ緩斜ヲナシ爲ニ海岸ヨリ探鑛場間ニハ一ノ向斜層ヲ畫セリ

石英粗面岩ハ第三紀層ヲ貫ケルモノニシテ海岸地方ニ於テハ紫色堅硬質ニシテ石英ノ斑晶少ナキモノナリ又探鑛場ノ南方ニ於ケルモノハ白色ニシテ其内ノ一部ハ分解シテ粘土ト化セリ

安山岩ハ又第三紀層及石英粗面岩ヲ貫ケルモノニシテ鑛床附近ニ於テハ貫入岩床ヲナセリ此岩石ハ暗黒色或ハ淡褐色緻密質ニシテ輝綠岩様ノ構造ヲ呈シ分解スレハ葱皮狀ニ剝離スル性アリ當山ニ於テ目下稼行セル鑛床ハ主トシテ此岩石ト第三紀層トノ接觸部附近ノ胚胎サレアルモノナリ

鑛床 鑛床ハ交代鑛床ニシテ安山岩ト第三紀層中ノ泥板岩或ハ凝灰岩トノ接觸部ニ存在セリ此安山岩ハ第三紀層中ニ二條ノ相並行セル貫入岩床ヲナシ其走向甚シク彎曲セリ而テ鑛床ノ大部分ハ此等兩安山岩間ニ介在セル第三紀層中ニアリテ扁豆狀ヲ呈シ殊ニ安山岩ノ彎曲セル部分ニ多ク胚胎セリ從來發見サレシモノハ其數十二個ニシテ何レモ其走向ヨリハ傾斜ノ方向ニ長ク連續セリ鑛石ハ黑鑛ニシテ其内ニ少シク硅酸ヲ混セリ其品位ハ鑛塊毎ニ其質ヲ異ニセリ其鑛床ノ胚胎セル位置狀態等ハ極メテ趣味アルヲ見ルナリ(鑛床圖參照)

以下各鑛塊ニ就キ之ヲ略記スヘシ

(一) 安山岩ノ間ニ存在セル幅狹キ第三紀層中ニアリ安山岩ノ下磐ニ扁豆狀ヲナセルモノニシテ長六十尺深七十尺餘厚四尺乃至十六尺平均九尺アリ上部ニ於テハ三十二度ノ勾配ヲナシテ北西ニ斜下セルモノ下部ニハ約水平トナレリ此鑛塊ハ大正五年二月ヨリ探掘セシモノニシテ其平均品位ハ左ノ如シ

土 半 期 分	金	銀	銅
下 半 期 分	金 0.000111 0.000117	銀 0.01三四七 0.01三四八	銅 四二二八 四五六

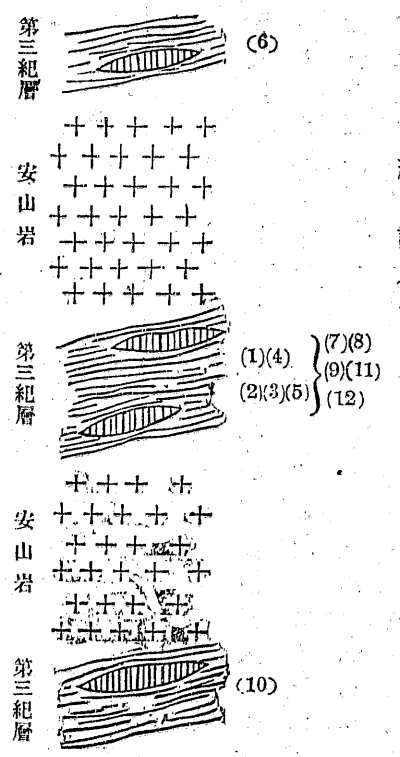
(二) 前者ヨリ厚十五尺乃至二十尺ノ泥板岩ヲ距テ其下磐ニアリ即チ他ノ安山岩ノ上磐際ニ胚胎セルモノニシテ其長七十尺深百二十尺厚三尺乃至十七尺平均十二三尺アリ此鑛石ハ一部分泥板岩ヲ雜ユルヲ以テ其品位劣レルナリ

(三) 二號ノ鑛先ニ相當スルモノニシテ長五十尺深四十尺厚平均六七尺ノモノニシテ品位ハ稍佳良

- ナリ
- (四) 二號鑛塊ノ鑛先キニ當ルモノニシテ長八十尺深サ斜ニ百三十尺ニ及フ此處ニ於テモ上部ハ三十度許ノ傾斜ヲ有スレトモ下部ニハ約水平トナレリ又厚サ三尺乃至十三尺平均八尺質ハ佳良ナリ此鑛ハ本年一月ヨリ探掘シ始メシモノニシテ上半期ノ平均品位ハ二號及四號ノ兩塊ヲ合シ平均金〇・〇〇四九六銀〇・〇二〇一九銅三九九ナリ又下半期ニ於テハ更ニ六號ノ鑛石ヲ加ヘタル平均品位ハ金〇・〇〇〇五六五銀〇・〇一七八四銅二九六〇ナリシト云フ
- (五) 二號ノ鑛先ニ相當スルモノニシテ目下此鑛塊ニ切當テタルノミナルヲ以テ其大サ品位等不明ナリ
- (六) 前記セル諸鑛塊ノ上磐ニ位セル安山岩ノ尙ホ上磐接觸部ニアルモノニシテ本年一月ノ發見ニ掛リ目下其探鑛中ニアリ其厚六七尺アリ
- (七) 上記兩安山岩間ニ介在セル薄キ第三紀層中ニアルモノニシテ其厚四五尺品位劣等ノモノナリ
- (八) 七號ト同一位置ニアルモノニシテ長四十尺深百尺以上ニ及フモ其下底ハ水沒セリ厚七八尺アリ
- (九) 又安山岩ノ間ニアリ長五十尺深七十尺上下ニモ亦甚シク膨縮シテ扁豆狀ヲ呈セルモノニシテ厚平均二尺アリ
- (三) 下部安山岩ノ直下ニアリ最近ノ發見ニシテ其厚ハ八九尺アリ其大サ不明ナルモ品位ハ佳良ナリ
- (二) 舊坑内ニシテ其全部ハ崩壞シ判然セサレトモ可ナリノ廣サヲ有セルモノノ如シ目下此鑛塊ノ下底ヲ探ル目的ニテ堅坑深百尺ノ下ヨリ鑛入ヲナシ正ニ其鑛床ニ會セルナリ

以上ノ内八號九號及十一號ノ三鑛塊ハ共ニ前鑛主時代ニ探掘セラレシモノニシテ其後現鑛主當山讓受ケノ後此等ノ殘鑛ヲ探掘セシモノニシテ其品位ハ平均金〇・〇〇六六八銀〇・〇二三四銅〇・二四八五アリタリ

上記各鑛塊ノ位置及母岩トノ關係ハ試錐ノ結果ヲ參照シ之ヲ圖解スルコト左ノ如シ但シ安山岩ノ幅ハ縮メ記入セリ



括弧内ノ數字ハ鑛塊ノ番號ナリ

即チ鑛塊ハ安山岩ノ上下兩盤際ニ胚胎セラルルモノニシテ殊ニ兩安山岩ニテ挿マレタル部分ニハ多數ニ存在シ此等ハ各安山岩ノ上下兩岩ニ接シ二條ニ發育セルアルヲ見ルナリ

次ニ現鑛業權者ノ著手以來探掘セル各鑛塊ノ量如次

鑛塊ノ番號

探掘量(噸)

- (一)(八)
- (二)(九)
- (三)(二)
- (五)

一二七八
四五二八

(六) 計 八三〇〇
(七) 三六九
(四) 二二〇〇

尙ホ鑛石ノ完全分析ハ左ノ如シ

金	〇・〇〇〇六七	銀	〇・〇二〇七	銅	三・五
鐵	八・五	鉛	一二	亞鉛	二・〇
硅酸	二・五	礬土	五	硫酸重土	二
石灰	二	硫黃	一九		

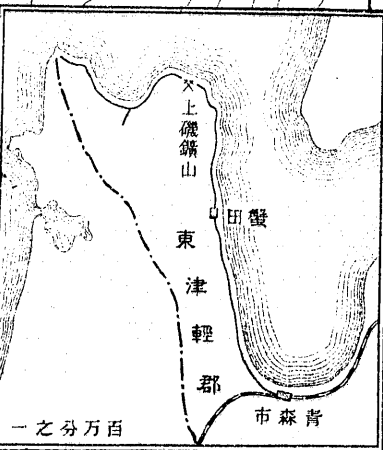
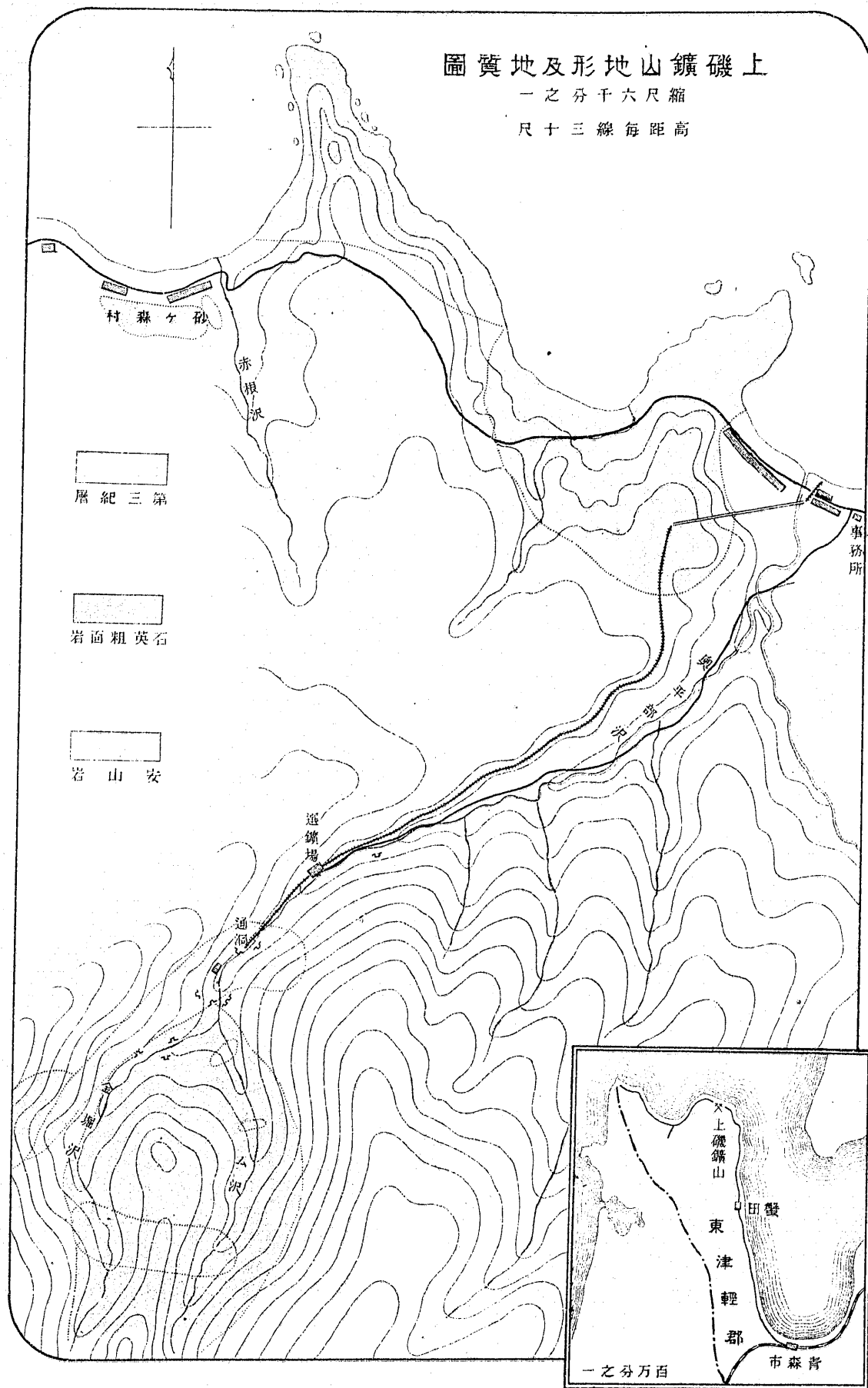
湯ノ澤鑛山 (大正六年十月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ青森縣西津輕郡深浦村大字深浦ニアリ即チ深浦ノ市街ヨリ南方僅カニ半里ノ所ニアリテ鱒ヶ澤町ヨリ深浦及岩崎村ヲ經テ秋田縣能代町ニ通スル縣道ノ傍ニアリ車馬容易ニ通シ得ヘシ又深浦灣ハ其規模小ナルモ近海ヲ航行セル汽船ノ寄港地ナルヲ以テ其交通及運搬共ニ比較的便宜ナリ然レトモ此地方ハ冬期ニハ積雪三尺乃至五尺ニ及ヒ且ツ海上風波荒キ爲メ此期間ニハ操業上ノ不便少ナカラサルナリ

本山ハ明治二十六年ノ發見ニシテ其後十箇年許リノ間ハ永井久太郎之ヲ稼行セリ三十九年藤田惣太郎ノ有トナリ大正四年二月ヨリ現鑛業權者横山久太郎ノ名義トナレリ目下使役人ハ約百二十名ニシテ内坑夫二十四名選鑛夫五十六名許リアリ

圖 質 地 及 形 地 山 鑛 礪 上

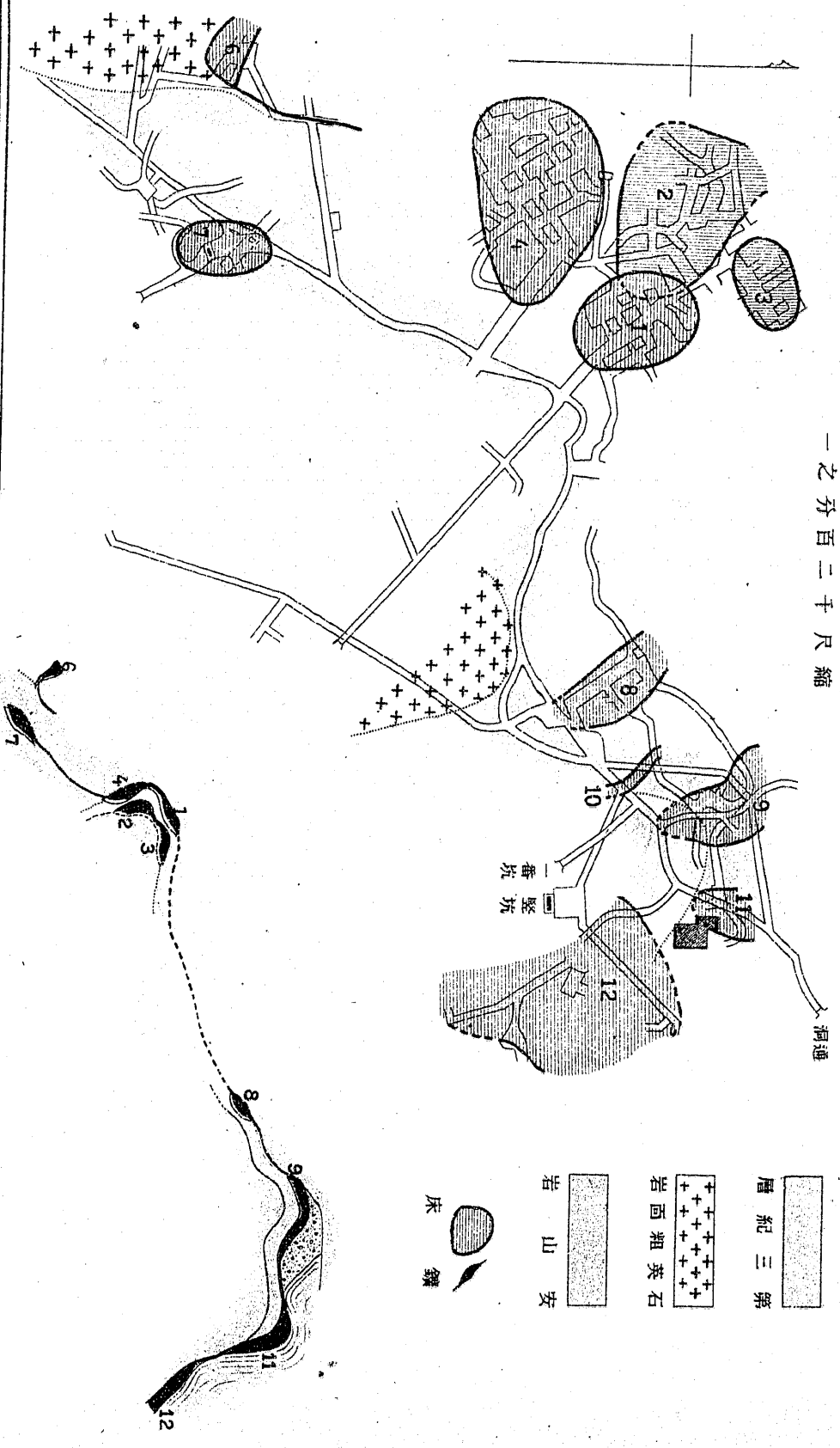
一 之 分 千 六 尺 縮
尺 十 三 線 每 距 高



一 之 分 万 百

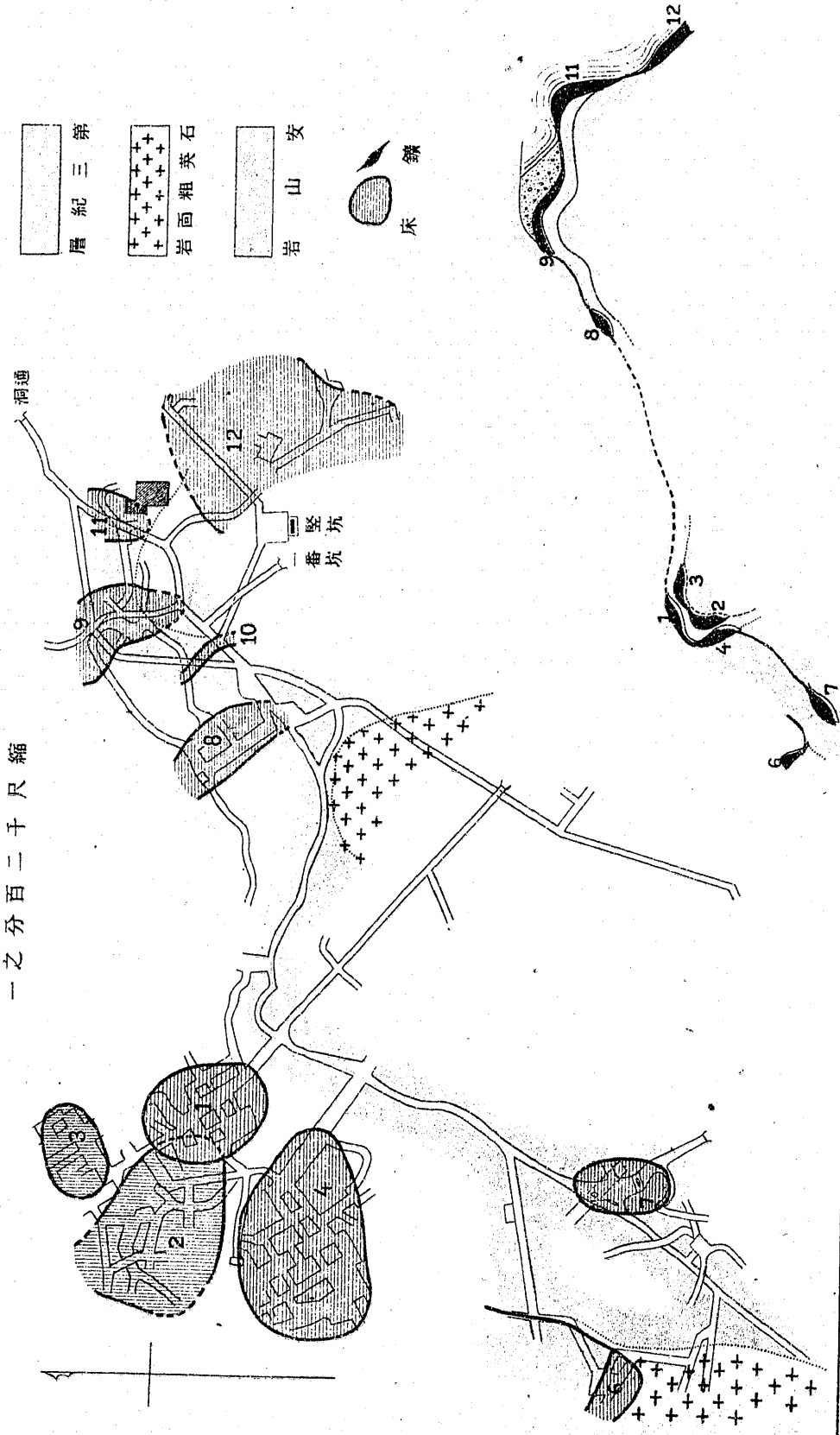
圖係開床鑛及質地ルケ於ニ内坑山鑛磯上

一之分百二千尺縮



上磯山坑內於地質及鑛床關係圖

縮尺二千分之一



從來ノ産額左ノ如シ

年次	精鑛塊(貫)	精鑛粉(貫)	二酸化鑛(貫)
大正四年	四三、六三二	七、九六〇	一
同五年	五三、七六六	一〇、八〇二	二五、八六六
同六年(六月迄)	二四、六七五	六、八五七	四、一五三

表中精鑛塊ハ金屬滿俺トシテ其品位平均四〇乃至四一%同粉鑛ハ三五%ニシテ又二酸化鑛ハ平均品位八四%ノ標準ナリト云フ鑛區ハ探登四四號鑛種滿俺十七萬九千八百六十坪ナリ地質 地質ハ第三紀層ニシテ主トシテ凝灰岩ヨリ成ル其走向約南北ニシテ西方ニ五度乃至七度ノ緩斜ヲナセリ

鑛床 鑛床ハ交代鑛床ニシテ凝灰岩中ニ層狀ヲナセリ其厚六尺乃至八尺ニ及ヘルモ此等ノ大部分既ニ探掘サレシナリ現今ニ於テハ以前ノ取殘シヲ再ヒ開發セルモノニシテ尙ホ其厚二尺許リノ鑛石ヲ存セルナリ此鑛床ハ其探掘跡ヨリ想像セハ長一千尺幅三百尺ニ及ヒ北東北ヨリ南西南ニ延長セリ鑛石ハ大部分硬滿俺鑛ニシテ其内少量ノ軟滿俺鑛ヲ共雜セリ母岩ハ大部分分解シテ滑カナル粘土ト化シ内ニハ滿俺ノ爲メ桃紅色ヲ著色セル部分アリ又鑛床ヨリ少シク距リタル部分ニ於テハ暗綠色ニシテ不規則ノ網狀ヲ呈セルアリ

此鑛床ニ伴ヒテ常ニ黃褐色或ハ黃褐色中ニ紫黑色ノ斑紋アル不純ノ硅石アリ俚俗之ヲ虎石ト稱セリ此虎石ハ鑛床ノ下磐ニ沿ヘルコト多キモ時トシテハ上磐又ハ鑛石中ニモ存在セリ當山ニテ目下

稼行セル鑛床ヨリ東方ノ山上ニ於テハ前記虎石ノ大露頭アリ其延長三百尺以上ニ及ヒ厚二十尺アリ
リ凸立セリ此虎石ノ内部又ハ下底ヨリモ良好ノ鑛石ヲ出シタリト云フ

探掘セル鑛石ハ先ツ篩分ケヲナシ次ニ洗鑛ノ上手撰ヲ行フモノニシテ從來ノ經驗ニ徴セハ粗鑛中
ヨリ得ル精鑛ノ率ハ大正四年度ニテ一二%同五年度一四%同六年度一四%平均一三四%ニ過キサ
ルナリ又手撰中ニ於テ軟滿俺鑛ハ二酸化鑛トシテ特ニ選別セララルモノニシテ大正五年ヨリ同六
年上半期末迄一箇年半間ノ計算ニ據レハ此二酸化鑛ハ僅カニ精鑛中ノ七%ヲ占ムルニ過キサ
ル

濱横川鑛山 (大正六年十二月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ長野縣上伊那郡川島村大字横川ニアリ即チ中央線辰野驛ヨリ西方三里半ノ
溪間ニアリ此間道路可良ナラサルモ緩傾斜ナルヲ以テ辛フシテ車馬ヲ通シ得ヘク荷馬車一臺ノ積
量約二百貫ニシテ其運賃二圓五十錢ヲ要スト云フ故ニ甚シク不便ナラサルナリ此地ハ冬期三箇月
間ハ一尺乃至三尺ノ積雪アルヲ以テ此期間ニ於テハ運搬ヲ阻害セララルナリ鑛石ハ大部分横濱ニ
出タシ駒田商會ヲ經テ米國ニ送ルト云フ又一部分ハ東京ニ出セリ
本山ハ明治四十三年村民ノ發見セルモノニシテ現鑛業權者濱勝衛之カ試掘權ヲ得本年五月探掘許
可トナレルモノナリ目下使役人ハ三十二名ニシテ其内坑夫十四名ナリ
今從來ノ産額ヲ記載セハ左ノ如シ

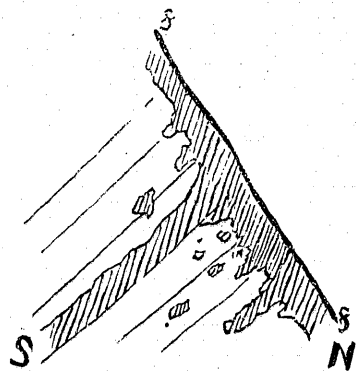
年次	數	量 (貫)	品 位 (二酸化%)
大正元年	同	三、〇二六	六〇
二年	同	三、二一〇七六	七〇
三年	同	二、九二三八六	六八
四年	同	二、六六七七〇	七〇
五年	同	四、〇二七二〇	七五
六年 (六月ヨリ十二月迄)	同	八、八六三〇	約七八

鑛區ハ探登七五號鑛種滿俺三十六萬五千二百八十坪ナリ

地質 地質ハ古生層ニシテ粘板岩砂岩及珪岩ヨリ成ル其走向北東ヨリ南西ニ走リ南東約六十度ニ
斜下セリ其地形ハ極メテ急峻ニシテ山ノ傾斜三十五度乃至四十度ニ及ヒ樹木繁茂セリ珪岩ハ鑛床
ノ母岩ヲナシ其地形凸起セリ

鑛床 鑛床ハ充填脈ニシテ二條アリ目下稼行セル場所ハ溪水ヨリ高七百尺許リノ所ニアリ其内ノ
一ハ古生層中ノ斷層面ニ沿ヒ脈狀ヲナセルモノニシテ其走向北八十度東ナルカ坑道ノ奥ニテハ轉
位シテ北四十度東トナルモ傾斜ハ何レモ北西五十度ヲ示セリ鑛石ハ極メテ佳良ニシテ其幅三尺乃
至六尺アリ坑内ハ極メテ不規則ニ探掘シアルヲ以テ其延長判然シアラサルモ約百尺ニ過キサ
シ又他ノ一脈ハ上記ノ脈ヨリ分岐セルモノニシテ珪岩ノ成層面ニ並行シテ層狀脈ヲナセリ其走向
北三十度東傾斜南東六十度其幅四尺許リアルモノ質ハ稍劣レリ故ニ以上ノ兩脈ハ恰モ入字形ヲナシ

其ノ兩脈ノ相會セル附近上下二十尺許リノ間ニハ鑛石ハ不規則ニ入亂レテ散點セリ其狀左圖ノ如シ



鑛石ハ大部分軟滿俺鑛ニシテ其内ニハ時時薔薇色ヲ呈セル菱滿俺鑛ノ殘存セルモノアルヲ以テ此鑛物ノ酸化作用ニヨリ生成サレシモノナルヲ推知シ得ヘシ鑛質ハ可良ナルヲ以テ僅カノ捨石ヲ除去スルノミニテ容易ニ精鑛ヲ得ヘク其内ノ八割ヲ一等鑛ニ屬シ二酸化滿俺ノ品位八〇%ヲ下サルナリ
次ニ母岩タル硅岩ハ小溪ヲ距テテ北東北ニ連亘シ其内ニ露頭アリ目下之ヲ探鑛セリ又此硅岩ニ沿ヒ南西ニ追ヘハ數町ヲ距テテ又一ノ露頭アリ以前ニ少シク探鑛ヲナセシモ其品位不良ナリシ爲メ中止シアリト云フ

黒川鑛山 (大正六年十二月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ岐阜縣加茂郡黒川村字保岐ニアリ即チ中央線大井驛ヨリ北西北七里ノ山間ニアリ此間縣道ニシテ車馬通シ得ヘキモ其途中遠根峠ノ峻坂アリ又西方十八里ニシテ岐阜市ニ至ルヲ得ヘク此間車馬ヲ通シ得ヘシ當山所産ノ鑛石ハ目下廣島縣契島ニ送ルモノニシテ其運搬ニハ以上兩路ヲ利用シ居レリ而テ前路ノ方ハ其運賃百貫ニ付五十錢許ノ廉價トナルヘキモ運搬力充分ナラサル缺點アリ當山ニテハ近時高爐一基ヲ建設シ製鍊ヲ開始スル計畫ナリ
本山ハ口碑ニ從ヘハ天明年間舊苗木城主遠山美濃守ノ稼行セシモノナリト云フ降テ明治年間ニハ屢鑛主ヲ變更シ其間多少製鍊ヲナシタルモ去ル二十六年以來休山セシモノナリ大正四年十月現鑛

業權者弘益殖産株式會社ノ有トナリ舊坑ノ取明ケヲ行ヒ富鑛部ニ會シタリ其後本年十一月迄約二箇年間ニ出鑛セシ精鑛ノ量ハ六十八萬六千五百八十九貫ニシテ其種類別左ノ如シ

鑛種	品 位		出 鑛 割 合 (%)
	銅 (%)	銀 (%)	
上 並	一八一・二〇	〇・〇六—〇・〇八	五
粒	八一・一〇	〇・〇三—〇・〇四	六〇
並	七・五	〇・〇三	三〇
粉	六	〇・〇二五	五

目下使役人百五十三名ニシテ内坑夫四十七名ナリ

鑛區ハ探登一一七號十九萬八千四百四十一坪ニシテ外ニ試登七三五號同八四七號合計百〇八萬〇七百一十一坪ナリ

地質 地質ハ鑛區内全部ハ灰色ノ石英斑岩ヨリ成ル(地質圖参照)
此岩石ハ此地方ニ廣ク發育セル花崗岩ヲ貫キ噴出セルモノナリ

鑛床 鑛床ハ裂罅充填脈ニシテ一條ヨリ其走間北七十度東傾斜北西六十五度乃至七十度ニシテ西スルニ從ヒ急トナレリ此脈ハ本坑ヨリ西方橫平坑ニ至ル其延長四百間餘ノ間知ラレアルモノナリ
鑛石ハ黃銅鑛ヲ主トシ此レニ少量ノ砒硫鐵鑛ヲ混シ又脈中ノ或ル部分ニ於テハ多少塊狀ヲナシテ砒硫鐵鑛ヲ見ルコトアリ而テ黃鐵鑛ハ極メテ稀ニシテ殆ト之ヲ見出ササル位ナリ又錳石トシテハ極メテ少量ノ螢石ト石英アルノミナリ粗鑛ノ平均品位ハ銅二・五銀〇・〇〇五%ニシテ之ヲ手選及策

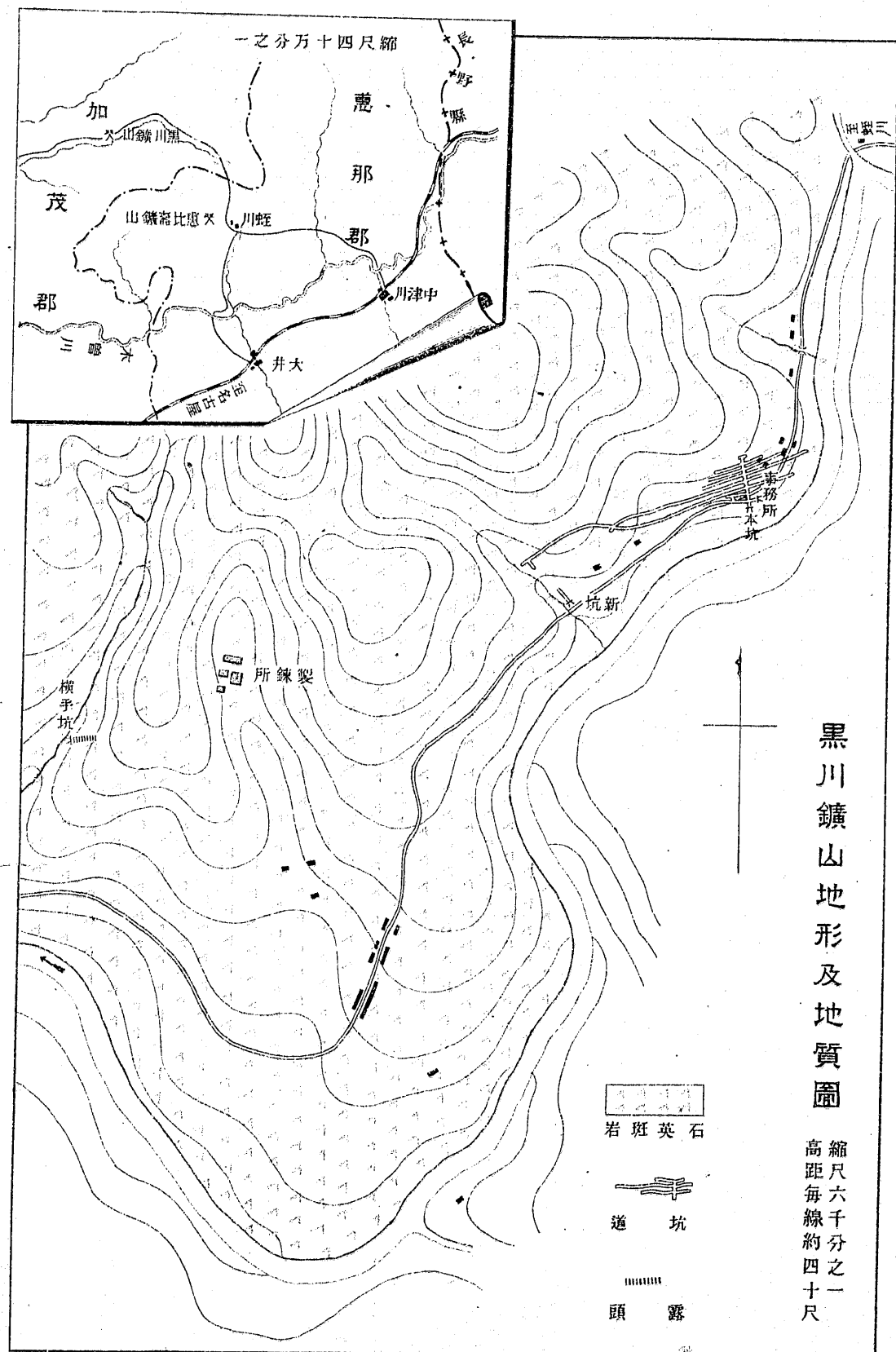
揚ニヨリ其含銅八乃至九%ノ精鑛トナセリ而テ鑛尾中ニハ尙ホ一五%ノ含銅アリト云フ此等ハ他日器械選鑛場ノ建築ヲ待ツテ之ヲ處理セラルルモノナリ

本山ノ鑛脈ニ沿フテハ常ニ走向斷層ヲ伴ヘリ爲ニ脈中ノ或ル部分ニ於テハ單ニ其幅五寸乃至一尺ノ粘土脈ノミトナリ鑛石ヲ見サルコトアリ又或ル部分ニ於テハ其幅六尺以上ノ間ザクザクニ碎ケ鑛石ハ玉石トナリテ不規則ニ其内ニ散在セルコトアリ而テ脈中ノ富鑛部ハ恰モ本坑ノ斜坑道ヲ中央トシテ其東西二百五十尺間ニシテ深サハ坑口ヨリ一番坑以下六番坑道マテ斜ニ三百二十尺ニ及ヘリ此區間ニ於テハ鑛石幅ハ平均二尺ナルモ脈中廣キ部分ニ於テハ其幅十五尺ニ達シ其内ニハ幅一尺許ニシテ品位極メテ佳良ナル銅鑛ノ三條或ハ四條相並行セルヲ見ルナリ然レトモ以上ノ富鑛部以外ニ於テハ鑛石ハ其幅數寸トナリ或ハ玉石トナリテ連續シ稀ニ磁硫鐵鑛ノ塊ヲ伴ヘルナリ

目下本坑口ヲ距ル西方百五十間許ノ所ニ新坑ヲ開キ鑛脈ニ會シタリ此坑道ニハ一番坑ノ面延ヒヨリ切上ケ連絡ヲ取ル計畫ナリ次ニ露頭ノ西端ナル橫平坑ニ於テハ其走向北七十八度東傾斜北西八十五度鑛幅十二尺此内五尺間ニ鑛石ヲ藏セリ而テ此五尺間ニ於テモ更ニ其中央部幅一尺ノ粘土脈ヲ通シ露頭部ニ於テモ明カニ走向斷層ノ存在ヲ示セリ此處ノ坑内ハ嘗テ明治二十五六年頃ニ稼行セシモノナリト云フ

惠比壽鑛山 (大正六年十二月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ岐阜縣惠那郡蛭川村大字和田ニアリ中央線大井驛ヨリ北方三里此間縣道ニシテ車馬ヲ通シ得ヘキモ良路ニアラス故ニ其運賃ノ如キモ百貫ニ付約一圓ヲ要スト云フ重石ノ精鑛ハ之ヲ大井驛ニ出タシ更ニ福島縣廣田藤田工場橫濱神戸或ハ八幡製鐵所ニ送レリ又此鑛石中ニハ蒼鉛鑛ヲ伴ヒ其量金屬トシテ重石ノ七乃至八%ニ達セリ此物ハ濕式製鍊ニヨリ不純ノ金屬蒼鉛



トナシ之ヲ東京染井ノ圓城製藥所ニ送レリ
 本山ハ明治四十四年ノ發見ニシテ最初一箇年間ハ專ラ鳩巢方面ノ試掘ヲナセリ其翌四十五年六月
 現鑛業權者杉本敬吾之ヲ讓受ケ更ニ鳩巢方面ニハ本坑及番外坑ヲ開キ又湊山方面ニ南坑湊山坑ヲ
 開キテ探鑛ヲナシ大正三年三月ヨリ探掘ニ着手シ同時ニ本坑通洞及湊山通洞ノ開鑿ヲ開始シ而テ
 鳩巢方面ニ於テハ一番坑ヨリ以下四番坑迄ハ蒼鉛多キノ故ヲ以テ操業ヲ中止セリ目下ハ主トシテ
 本坑及湊山方面ノ探鑛ヲナセリ其使役人ハ總計百八十九名ニシテ其内坑夫八十一名選鑛夫七十名
 ナリ次ニ操業以來ノ產額ヲ掲クレハ左ノ如シ

大正二年	同三年	同四年	同五年	同六年
五、八三二	一〇、一四四	一〇、五五四	一三、七二〇	一三、一〇六
六、六七	六、六〇	六、五五	六、四〇	六、三〇
一	二六	一七	二七	三三
五、六〇	五、五三	五、五〇	五、五〇	五、五〇

鑛區ハ探登一三一號鑛種銅錫重石蒼鉛水鉛六十七萬二千七百坪ナリ
 地質 地質ハ花崗岩及石英斑岩ヨリ成ル

花崗岩ハ低平ナル地形ヲ呈シ分解シテ粗鬆質トナレルモノ多ク鑛區内ニ於テハ地表ニハ一モ露出
 セルモノナキモ坑内ニ於テハ僅カニ湊山方面ノ中切坑内暨坑ノ下部及南坑下部引立邊ニ當リ狹小

ノ部分ニミ出ツ此岩石ハ黑雲母ハ半ハ分解シテ綠色ヲ呈シ外ニ白雲母ヲ有セル複雲母花崗岩ナリ又鑛床ノ附近ニ於テハ長石ハ大部分分解シテ雲母ト化シ爲ニ其岩質ハ石英及雲母ノミヨリ成レル「グライゼン」ト成レリ石英斑岩ハ帶綠灰色或ハ帶黃灰色ニシテ高峻ナル地形ヲナシ花崗岩ヲ貫キ噴出セルモノナリ以上ノ兩種岩石ハ或場合ニハ識別シ難キコトアルモ普通ニハ判然區別シ得ラルルモノニシテ石英斑岩中ニハ雲母ヲ有セスシテ角閃石ヲ見ルナリ

鑛床 鑛床ハ「ベグマタイト」石英脈ニシテ約東西ニ走レル竝行脈ナリ其數合計十四五條ニ達スヘシ而テ目下稼行セルモノハ鳩巢方面ニ於テハ前鑛及奥鑛ノ二條ト湊山方面ニ於ケル三號鑛ノ一條アルノミナリ其内鳩巢方面ニ於テハ本坑地竝以上ハ殆ト全部探掘跡ナリ而テ本坑地竝ニ於テハ其西向ハ南北ニ走レル斷層ノ爲メ切斷サレタリ其地先ハ奥鑛ノ出サレアルモ前鑛ハ未タ探掘サレサルナリ此等ノ兩脈ハ此地竝ニ於テハ前鑛ノ幅七寸奥鑛ノ幅八寸共ニ好況ヲ呈セリ又本坑ヨリ約七十尺許下部ニアル中切坑道ニ於テハ以上ノ兩鑛ハ其東向ハ地表ニ近キ爲メ探掘スルコト能ハサルモ西向ニハ大ニ探掘ヲ爲スコトヲ得ヘク而テ前記セル斷層マテノ距離ニテモ五百四十尺許アルナリ此兩脈ハ共ニ竝行シテ其走向北八十度東南東ニ急斜シ其幅各八寸ノ石英脈ニシテ其内上下兩磐近クノ所ニハ多クノ鐵滿掩重石鑛ヲ點在セルヲ見ル而テ奥鑛ニ於テハ更ニ其脈中ノ中央部ニ多クノ輝水鉛鑛ヲ散點セルヲ認ムルナリ以上ノ兩脈ハ其幅廣カラサルモ概シテ好況ヲ呈シ重石鑛ノ平均實收二%ニ及フト云フ

湊山方面ニ於テハ三號鑛ノミヲ稼行セルモノニシテ中切坑道以上ハ既ニ探掘シ終レリ而テ此坑道下五十尺毎ニ坑道ヲ開鑿シ目下ハ掘下一番坑道ヨリ三番坑道ニ及ヒ探掘ハ專ラ此等ノ坑道間ニ行ハル此鑛ハ其走向北八十度西ニシテ北東ニ急斜セリ鑛石ハ其幅一尺乃至二尺時トシテハ三尺ニ膨

大スルコトアリ其内重石鑛ハ脈中ノ中央部ニアルコト稀ニシテ多クハ兩磐際近クニ散點セルヲ見ル然レトモ其存在狀態ハ鳩巢方面ノ前鑛及奥鑛ヨリモ稍劣レリ由來重石鑛ハ脈中ノ上部ニ多キモ下底ニ趣クニ從ヒ大ニ稀薄トナルヘキ傾向ヲ有セルモノナルモ此脈ノ如キハ可ナリ連續セルモノニシテ目下ノ最下底タル掘下三番坑道ノ如キハ地表下約四百尺ニ及ヘルモ尙ホ依然トシテ其存在ヲ認め得ヘキナリ此脈ハ時時石英中ニ白雲母ヲ伴ヘルコトアリ且ツ母岩ハ鑛床ニ沿ヘル部分ノミハ「グライゼン」ト化セリ今左ニ毎年產出セル粗鑛精鑛量ニヨリ粗鑛中ヨリ精鑛ヲ得ル割合及重石ノ實收率ヲ計上スレハ左ノ如シ

年次	粉鑛量(貫)	品位(%)	精鑛量(貫)	品位(%)	粗鑛ヨリ精鑛ヲ得ル割合(%)	重石實收率(%)
大正二年	三三、七四	三〇〇	五八二	六六七	二六	五八〇
同三年	六七、七〇	一八九	一〇、一四	六六〇	一五	五〇
同四年	九〇、五四	一八五	一〇、五四	六六五	一六	四八
同五年	一、二〇、七三三	一六	一、七、七〇	六四〇	〇七	三五九
同六年(十一月)	一、三九、七五四	一三	一、三、一〇六	六三〇	〇四	四七

老平鑛山 (大正七年四月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ山梨縣南巨摩郡硯島村大字兩畑ニアリ富士川沿岸ノ飯富村ヨリ西方早川ニ沿ヒ浜ルコト五里山間邊脈ノ地ニヨリ此内飯富ヨリ大島ニ至ル三里ノ間ハ舟楫ノ便アルモ大島ヨリ鑛山迄ノ間ハ車モ通セス運搬ノ如キハ專ラ人背ニ依リ故ニ其運賃ノ如キモ極テ不廉ニシテ飯富大島間十貫ニ付三十五錢大島鑛山間同三十五錢合計七十錢ヲ要ス其不便ナル推知スルニ難カラス

此地方ハ口碑ニ從ヘハ從昔武田信玄時代ニ開發シ引續キ德川治世ノ中頃迄ハ可ナリ盛ニ稼行サレシモノノ如シ其後荒廢ニ歸セシカ明治三十年頃古莊嘉門試掘ヲ開始シ其後屢鑛主ヲ變更シ大正五年十月現鑛業權者久原鑛業株式會社ノ有ニ歸シ引續キ稼行セルモノニシテ鑛石ハ山元ニテ水力ヲ利用シ薩摩式木製搗鑛機五臺杵數百本ヲ運轉シ混汞法ニヨリテ採金ヲナセリ尙ホ青化法試驗ノ結果良好ナルヲ以テ今後ハ此法ヲ併用スルニ至ルヘシト云フ目下ハ一日一千貫ノ鑛石ヲ處理シ約二十多ノ青金(金八二銀一八%)ヲ得ヘシ使役人ハ五十七名ニシテ内坑夫二十名ナリ

鑛區ハ探登三七〇號鑛種金二十三萬四千三百六十坪ナリ
地質 地質ヲ古生層ニシテ黑色及灰綠色粘板岩ノ三層ヨリ成ル此等粘板岩ハ共ニ剝離性ニ富ミ其走向約南北ニシテ西方ニ急斜セルモ或部分ニ於テハ東方ニ斜下セル事アリ而テ鑛床所在地ヲ距ル遠カラサル區域ニハ閃綠岩ノ露出セルモノアリ此岩石ハ特ニ鑛床ニハ關係ヲ有セサルモノノ如シ鑛床 鑛床ハ層狀脈ニシテ其走向北十五度東傾斜北西七十度ナリ母岩ハ灰綠色粘板岩中ニヨリ本鑛及上盤鑛ナル二條ノ石英脈ヨリナル然レトモ此等兩鑛ハ本坑道準ニ於テハ相距ツル六尺ナルモ本坑道下六十尺ナル一坑道ニ於テハ四尺距リトナリ以下漸次相近接セル傾向ヲ示セリ本鑛ハ膨大セハ其幅六尺トナルモ普通ニハ二三尺ナリ又上盤ハ其幅六寸乃至八寸ヨリ其質ハ兩脈共ニ同様にナル白色ノ石英ニシテ極メテ少量ノ黃鐵鑛硫砒鐵鑛黃銅鑛等ヲ有セリ其平均品位ハ金〇・〇〇三乃至〇・〇〇三五銀〇・〇〇九ニシテ金粒ハ細微ノモノナリ此等ノ脈ハ其延長僅カニ二百尺許ニシテ其南北兩端共ニ斷層ノ爲メ切斷サレアルナリ即チ南方ハ其走向北五十度東傾斜南東七十度又北方ノモノハ其走向北六十度東傾斜北西六十度ノモノニヨリ判然切斷サレアルヲ見ル本脈ノ南向露頭ハ細微ノモノトナリテ奥澤ノ河中ニ出テ尙ホ此河ノ南側ニ開鑿セル南坑ニ於テハ其幅二尺ニ達セル

モ金分稀薄ニシテ探掘ノ價值ナキモノトナレリ又本脈ノ北向ニ於テハ母岩ノ上下盤ニ向ヒ種種其鑛先ヲ探求シアルモ未タ之ヲ發見シ得サルナリ此レ恐ラクハ本鑛ニ沿ヒ走向斷層ヲ伴ヒ居レル爲本坑準ニ於テ之ヲ發見シ得サルニ歸因セルモノナカラシカ左ニ從來稼行セル成績ヲ掲ク

年	月	搗鑛量(貫)	品		位(%)		製 品(匁)		實收率(%)	
			金	銀	金	銀	金	銀	金	銀
大正五	年七月ヨリ	三三六五	0.00084	0.0016	一六八五	二七四	五・〇	五・二		
大正六	年一月ヨリ	六八二九	0.0003	0.0006	一四八	二五	五九	五・六		
同	七月ヨリ	四二二六	0.0011	0.0003	二八六	四	六・二	三五		
大正七	年一月ヨリ	一〇七四三	0.0017	0.0005	一七四	二七	五九〇	五・七		
計	三月迄	一五七三三	0.0033	0.0007	五・三三	八〇	五九七	五・七		

尾小屋大谷鑛山 (大正七年四月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ石川縣能美郡金野村大字五國寺ニアリ北陸線小松驛ヨリ南東二里半此間車馬ヲ通スヘク其運賃百貫ニ付一圓ヲ要セリ當山ハ尾小屋鑛ノ支山ニシテ其產出セル銅鑛ハ此地ヨリ南三里ナル本山ニ送ラルモノニシテ此間亦車馬ヲ通シ得ヘク其運賃百貫ニ付一圓六十錢ヲ要セリ然ルニ目下尾小屋鑛山ヨリ小松驛ニ通スル鐵道建設中ナルヲ以テ之カ開通ノ曉ニハ非常ノ便宜ヲ得ヘク從テ運賃モ亦大ニ低減セラルルニ至ルヘシ又亞鉛鑛ハ之ヲ大阪ニ出タシ久原鑛業株式會社ニ販賣セリ本山ハ明治二十三年頃ノ發見ニシテ爾來幾多ノ鑛主ヲ變更シ明治四十年五月現鑛業權者合名會社橫山鑛業部ノ有ニ歸シ四十四年九月器械選鑛所ヲ設ケ最近ニハ浮選鑛ノ計劃ヲ

ナシ新選鑛所建築中ナリ當山ニ於テハ目下使役人ハ約二百五十名ニシテ内坑夫百〇八名ナリ
次ニ最近三ヶ年間ノ差額ヲ掲クレハ左ノ如シ

年次	銅積鑛(貫)	品位(%)	年次	銅積鑛(貫)	品位(%)
大正四年	三〇〇、八七二	九、三三	大正五年	五一三、四四九	八、八六
同 六年	三五四、一八〇	九、九三			

尚ホ大正六年ニ於テハ外ニ亞鉛鑛五二、九二八貫(品位四三%)ノ產出アリ
鑛區ハ探登一〇八號鑛種金銀銅鉛亞鉛四十五萬五千七百三十坪ナリ

地質 地質ハ全部第三紀層ヨリ成ル唯タ鑛區ノ北端ナル五國寺ノ路傍ニハ粗鬆質ナル石英粗面岩
ヲ見ルノミ地形ハ高三百尺許ノ丘陵地ニシテ小雜樹アルノミ要スルニ前記セル岩淵鑛山ト同一地
質ノ連續ニシテ實ニ相距ツル直徑一里ニ充タサルナリ

此第三紀層ハ主トシテ帶綠白色ノ凝灰岩ヨリナル之ヲ採掘シテ石材ニ使用セリ

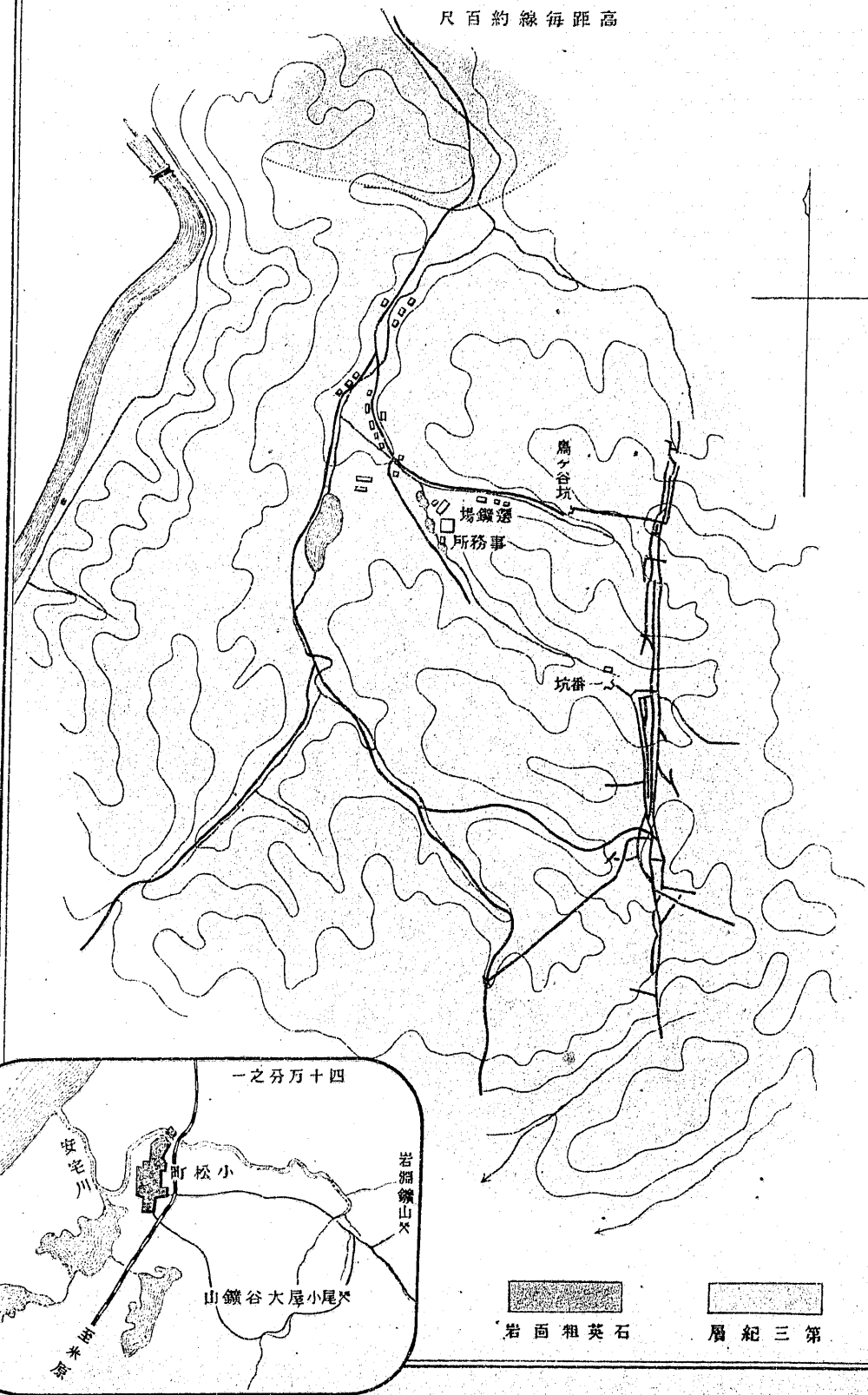
鑛床 鑛床ハ裂罅充填脈ニシテ其母岩ハ軟キ凝灰岩タルニ拘ハラズ脈幅ノ變化少ク又其走向ニモ
極メテ長ク連續セルヲ見ルナリ本山主要ノ鑛脈ハ本鑛及前鑛ノ二條ヨリナル本鑛ハ其走向北十五
度西傾斜北東七十五度乃至八十度ニシテ其延長四千尺以上ニ及ヘリ其内坑道ノ北端ニハ最早鑛石
ヲ見サルモ南端ニ於テハ尙ホ鑛石ヲ追ヒツツ掘進シツツアルナリ前鑛ハ本鑛ノ西側ニ並行セルモ
ノニシテ極メテ近距離ニヨリ南西七十五度許ニ斜下セリ此脈ハ本鑛ノ中央部ヨリ以南ニノミ存在
セルモノニシテ多分本鑛ヨリ分岐シタルモノト考ヘラル

本鑛ハ石英脈ニシテ其内ニ黃銅鑛ヲ含ミ其脈幅一尺内外アリ此脈ハ膨大スルモ二尺ニ充タス平均
鑛石幅八九寸其含銅平均品位二乃至二三%ナルヘシト云フ此脈モ又岩淵鑛山ノモノニ於ケル如ク

圖質地及形地山鑛谷大屋小尾

一之分千二万一尺縮

尺百約線每距高



石英粗面岩 第三紀層

常ニ走向斷層ヲ伴フヲ以テ鑛石ハ非常ニ粘土質ナルヲ免カレス坑内ハ疏水坑道タルヘキ一番坑道以下百二十尺ニ二番坑アリ尙ホ六十尺ニシテ中切坑更ニ百二十尺ニシテ最下底ノ三番坑道トナル而テ此等各坑道間ノ鑛石ハ既ニ大部分採鑛サレ目下ハ中切坑及三番坑道間ノモノヲ採掘シツツアルナリ次ニ前鑛ノ鑛石ハ斷層ヲ伴ハサルヲ以テ從ツテ粘土ヲ伴フコトナク又本鑛ノモノト異ニシテ黃銅鑛外ニ多量ノ黃鐵鑛及閃亞鉛鑛ヲ伴ヘルナリ此脈モ其延長八百尺ノ間ハ良鑛ヲ出タセシカ脈中ノ上部ハ現ニ全部採掘跡ナリ故ニ本山ニ於テハ本脈及前鑛共ニ今後ハ專ラ下底ノ開坑ニ待タサルヘカラサルナリ

岩淵鑛山 (大正六年四月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ石川縣能美郡中海村大字岩淵ニアリ北陸線小松驛ヨリ南東南二里半此間道路平坦車馬ヲ通シ得ヘシ鑛山ハ岩淵村落ヨリハ十二町南方ノ溪間ニアリ此間ニ軌道ヲ敷設ス本山所産ノ鑛石中銅鑛ハ全部東隣セル遊泉寺鑛山ニ賣鑛シ又亞鉛鑛ハ大阪久原鑛業株式會社ニ送レリ本山ハ明治十五年ノ新發見ニシテ爾來屢々鑛主ヲ變更セリ其後明治四十一年現鑛業權者大塚榮吉ノ有ニ歸シテヨリ約二ケ年間休山セシカ四十三年末ヨリハ引繼キ稼行セリ目下使役人ノ數ハ百五名ニシテ其内坑夫三十七名アリ次ニ最近二ケ年間ノ產額ヲ掲クレハ左ノ如シ

		銅精鑛(貫)	品位(%)	亞鉛精鑛(貫)	品位(%)
大正五年	上半期	五、六三三	四五	三八五〇二	四五
	下半期	二、三、九四六	五〇	一〇、八六八	四五
大正六年	上半期	一〇、一、七〇〇	四五(?)	六、四八〇	四〇(?)
	下半期	三、六、七八〇	四五(?)	一六、七四〇	四〇(?)

鑛區探登三六〇號鑛種銅亞鉛十二萬一千七百十四坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層及ヒ變朽安山岩ヨリ成ル其地形ハ高三四百尺ノ丘陵地ニシテ雜小樹アルノミ
第三紀層ハ全部凝灰質ニシテ角礫凝灰岩凝灰質砂岩及ヒ凝灰質泥板岩ヨリナル其走向一定セス傾斜ハ極メテ緩ナリ

變朽安山岩ハ僅カニ其幅一尺餘ノモノ一條ノ岩脈ヲナシ鑛床ニ沿ヒ坑内ノ南方ニ出ツ此岩石ハ甚シク分解シテ軟質トナレルヲ見ル

鑛床 鑛床ハ裂罅充填脈ニシテ目下稼行セルモノ僅カニ一條アリ其走向北六十五度ニ走リ北西七十五度ニ斜下シ延長三千尺ニ及ヘリ此脈ハ之ニ並行セル斷層ヲ伴ヘルヲ以テ時時狹小シ或ハ斷絶シテ單ニ粘土錫ノミトナルコトアリ鑛石ノ幅ハ膨大セル部分ニハ六尺ニ達セルコトアルモ普通一尺内外ニシテ其平均幅七寸位ナリト云フ鑛質ハ石英脈ニシテ其内ニ黃銅鑛黃鐵鑛或ハ閃亞鉛鑛ヲ有シ又少量ノ方鉛鑛紫石英及綠泥石ヲ伴ヘリ此等ハ粘土錫ナル走向斷層ニ沿ヘル爲メ甚シク粘土質ヲ帶ヘリ大加坑ハ恰モ選鑛場脇ノ溪間ヨリ開鑿サレシ疏水坑ニシテ此坑道以上ノ鑛石ハ既ニ採掘サレ以下ニハ約六十尺毎ニ四番坑五番坑ヲ經テ最下底ナル六番坑ニ達セリ然レトモ湧水ハ多カラサルナリ目下ハ主トシテ五番坑道附近ヲ採鑛セリ

坑内ヨリ搬出セル鑛石ハ甚シク粘土ヲ被レルヲ以テ先ツ水中ニテ攪拌シ之レヲ除去セリ而テ其内ノ荒キモノハ手撰ヲナシ其手撰滓及ヒ小粒ノモノニハ全部器械選鑛ヲ施セリ其粗鑛ノ含銅平均品位ハ一五乃至一六ナリト云フ

今本年一月ヨリ三月ニ至ル三ヶ月間ノ成績ヲ掲クレハ左ノ如シ

月	次	粗鑛總量(貫)選鑛ノ種類	粗鑛量(貫)	精鑛量(貫)	精鑛ノ品位(%)
一		七、二四九 器械選	四、六五八	一、九二〇	五五
二		五、〇一〇 器械選	二、五〇三	一、一七〇	五〇
三		七、九六三 器械選	二、八九一	一、九一〇	四五
		七、九六三 器械選	二、七五九	四、四九	八〇
		七、九六三 器械選	四、八三四	三、四〇〇	五〇
		七、九六三 器械選	四、八三四	五、三七八	六〇

外ニ亞鉛鑛ハ全部手撰セルモノニシテ其精鑛量ハ一月三〇七一二月一九六一三月三八七四合計八千九百〇六貫ニ過キス

日影鑛山 (大正六年五月今泉技手巡回)

位置交通其他

本山ハ鹿兒島縣揖宿郡今和泉村大字池田ニ在リ南方池田湖ニ相對シ南五町ニシテ宮ヶ濱瀨娃間ニ通スル縣道ニ出テ二里餘ニシテ宮ヶ濱港ニ至ルヲ得ヘク交通便利ナリ

本山ハ明治三十年頃ノ發見ニ係リ三十二年頃ヨリ探掘ニ著手シ爾來三四名ノ鑛業人ニ移轉シ大正三年九月現鑛業權者薩南鑛山合資會社ノ有ニ歸シ今日ニ及ヘリ

鑛區ハ探掘權登錄第一六〇號鑛種金銀坪數五萬七千八百坪アリ

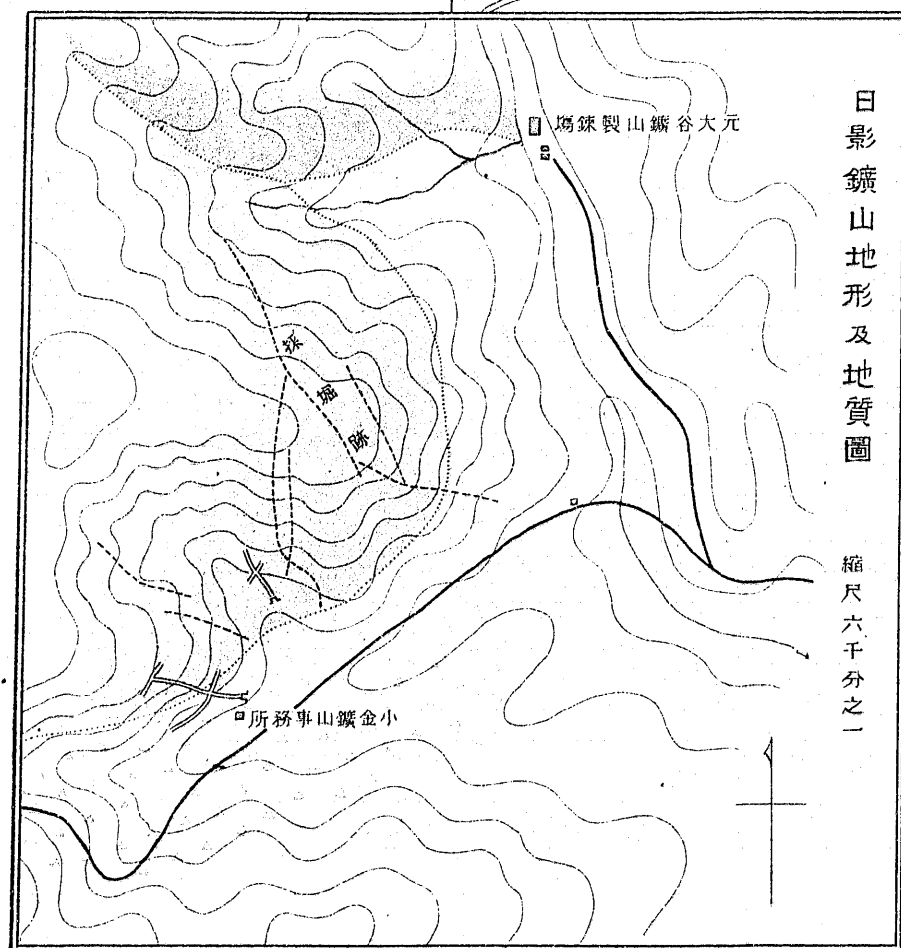
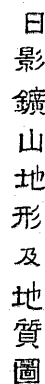
地質及鑛床 地質ハ石英粗面岩及同質角礫岩ヨリ成リ鑛區ノ北部ニ安山岩ノ露出ヲ見ル而テ石英粗面岩ハ著シク硅化セラレ一見水成岩ノ如キ外觀ヲ呈ス鑛床ハ此岩石中ニ胚胎シタル石英鑛脈ニシテ目下稼行中ニ係ル鑛脈ヲ小金本鑛ト稱シ其走向略南北ニシテ東ニ急斜シ幅四五寸ヨリ一尺四

赤石鑛山アゲシ
(大正六年五月今泉技手巡回)

製鍊所ハ本山ヲ去ル三里同村祿ニ在リ鑛石ハ馬車ニテ運搬ス其運賃百八十貫九十九錢ナリ

地質 地質ハ石英粗面岩ヨリ成リ丘麓周圍ハ火山灰砂ニヨリ被覆セラル石英ハ粗面岩ハ赤石岡ト稱スル前記ノ一小丘ヲナシ北方ハ絶壁ヲナシ南方ニ漸次低下セリ該岩石ハ鑛床ノ母岩ヲナシ白色灰色及黒灰色ヲ呈ス(附圖參照)

鑛床、鑛床ハ前記岩石中ニ胚胎シ石英脈ニシテ肥大シタル部分ハ幅三四十尺ニ達スル處アリ又一
二尺ニ狹少シタル所アリ而テ其存在ノ狀態ハ略南北ニ發達セルモノノ如ク傾斜亦一定セス鑛石ノ
上鑛ト稱スヘキモノヲ見ルニ殆ト粘土狀ニシテ赤褐色ヲ帶ヒ黃鐵鑛ヲ含ミ金粒ハ肉眼ヲ以テヨリ



識別シ得ル程度ノモノアリ其含金量千分臺ノモノアリト云ヘリ而テ又母岩全體何レノ部分ニモ金銀ノ痕跡ヲ見サルナシト云フ

探鑛 探鑛ハ鑛床ノ狀態不規則ナルヲ以テ常ニ探掘ノ容易且含金多キ粘土狀ノ部分ヲ探掘セリ時ニ塊狀ノ部分ニ遭遇セシトキハ龍頭ヲ存シテ探掘ス現時坑口ヨリ下方百三四十尺ヲ探掘シ鑛石ノ運搬漸ク困難トナルヲ以テ昨年來南麓縣道地並ヨリ探鑛ヲ兼ネタル運搬坑道ノ開鑿中ニシテ既ニ二百餘尺ヲ掘進セリ

製鍊 鑛石ヲ水車ニテ搗鑛シ混汞法ニヨリ收金ス其主ナル機械ハ水車五臺搗鑛皿四十個木製杵二百本塊鑛破碎杵十五本ナリ使役人ハ此鑛夫製鍊夫其他ニテ合計三十六名ヲ使役ス其最高一日一人平均賃金四十錢最低平均十五錢ナリ大正五年中ノ鑛產額ハ青金トシテ七貫八百六十七匁ナリシト

大良鑛山 (大正六年五月今泉技手巡回)

位置交通其他 鹿兒島縣始良郡蒲生村大字漆ニ在リ九州本線重富驛ノ西北五里強大良山ノ山間赤仁田川ノ溪谷ニ位セリ近時蒲生本村ヨリスル里道ト山田村ヨリ薩摩郡大村ニ通スル縣道ノ開通セントシ漸ク運搬ノ便ヲ加フルニ至ラントス本山ハ嘗テ島津齊彬公ノ時代ニ一度探鑛ヲ試ミシコトアリシモ良鑛ニ會セス明治十八九年頃稍良鑛ヲ發見シ同二十八年種田誠一ノ經營スル所トナリ一時多大ノ產出アリ稍著名ノ鑛山トナリ三十八年坂元イマノ經營ニ移リ大正五年六月現鑛業權者住友吉左衛門之ヲ讓受ケ今日ニ及フ鑛區ハ探掘權登錄第二〇號鑛種金銀鑛坪數七萬五百坪ナリ地質及鑛脈 地質ハ輝石安山岩ヨリナリ火山灰砂ヲ以テ被覆セル部分アリ鑛脈ハ前記安山岩中ニ胚胎シタル石英鑛脈ニシテ稼行ニ耐エヘキモノ一條アリ而テ略之レト併列スル鑛脈ノ數ハ其幅五尺以上ノモノ三條其他一尺未満ノ細脈ハ舉ケテ數フ可カラス走向概シテ北六十度乃至五十度東ニ

互リ時ニ南ニ急斜シ普通七八十度ノ勾配ヲ以テ西北ニ傾斜ス鑛脈ヲ胚胎セル母岩ハ甚シク霏爛スルヲ常トシ明カナル磐肌ヲ有セス鑛脈ノ堅硬緻密ナル間ハ不定形ノ空隙ヲ生シ之ニ粘土質ノ土ト鑛脈ノ碎片トヲ混シタルモノヲ充填セリ斯ノ如キ粘土質ノ混合物ハ特ニ上鑛トシテ處理セラル要スルニ比較的簡單ナル製鍊法ニヨリテ處理セラルヲ以テ金屬分ノ分離容易ナルカ爲メナルヘシ現鑛業權者ノ有ニ歸シテヨリ最下部疏水坑道ノ開鑿ヲ續行中坑口ヨリ七百五十尺ノ地點ニ於テ走向北五十度東傾斜南ニ七十度幅二十五尺餘ノ一大石英脈ニ逢着セリ而テ脈幅ノ約三分ノ一ハ含金部分アリト云ヘリ此鑛脈ハ將來本鑛山ノ主要鑛脈タルヘキモノナラン

探鑛及製鍊 探鑛ニハ上下階段法ニヨリ爆藥及手掘ニヨリ探掘ス選鑛ハ手撰ニヨリ塊鑛ハ鏈ヲ以テ一寸内外ニ破碎ス鑛石ハ木製水車ニヨリ搗鑛シ混汞トナス鑛尾ハ沈澱池ニ導キ更ニ青化法ニヨリ採取ス之ニ要スル器具機械ハ水車五臺搗鑛皿十六個杵數八十本亞鉛箱二個溶解槽九個泥槽四個使役人ハ探鑛製鍊其他ニテ合計四十三名ニシテ其最高賃金平均一日一人五十錢最低十七錢ナリ鑛產額 大正五年下半年期ニ於ケル鑛產額ハ金三百三十九匁一分五厘銀二貫三百五匁四分三厘ナリ

平磐鑛山 (大正六年十二月今泉技手巡同)

位置交通其他 本山ハ愛媛縣西宇和郡四ツ濱村大字大久ニ在リ西宇和半島ノ中央大久部落ノ東方十八町ヲ距ツ陸路ハ交通極テ不便ノ地ナレトモ海路ハ八里八幡濱七里川石港ニ十二里ニシテ大分縣佐賀關町ニ達スコトヲ得本山ハ明治十七八年頃發見セラレシト傳フレトモ其沿革詳ナラス現今稼行シツアル部分ハ明治三十年頃ノ發見ニ係リ三十三年六月山下喜一浦中友次郎ノ兩名探掘權ヲ得經營シタル所ニシテ大正五年十二月現鑛業權者茂木惣兵衛之ヲ讓受ケ爾來諸般ノ設備ヲ施シ今日ニ及ヘリ目下各坑口ヨリ選鑛場ニ至ル輕便索道及選鑛場其他ノ工事中ニシテ出鑛量大ナラス

ト雖モ一日約八千貫一箇月十七八萬貫ヲ產ス含銅品位三三%ナリ

鑛石ハ坑所ヨリ鐵索ニヨリ直ニ船積トナシ川石或ハ八幡濱等ニ輸送スルコトヲ得其運賃百貫二十四五錢ヲ要ス目下本山ニ於ケル使役人ハ二百七十名ニシテ內探鑛夫百名ナリ

鑛區ハ探掘權登錄第五一號鑛種銅坪數三十一萬四千一坪ナリ地質及鑛床 綠泥片岩中ニ介在セル含銅硫化鐵鑛床ニシテ其走向二百四十度傾斜南三十度常ニ鑛床ハ地層ト併行ス然レトモ著シク皺曲波形ヲ呈スルコトアリ或部分ニ於テハ其高距十五尺乃至三十尺ニ及フコトアリ鏈幅ハ大ナル部分八尺小ナル部分七八寸アリ平均約二尺ナリ(附圖參照)鑛石ハ鉛ト「ドーキン」ノ二種ニシテ其含銅品位ヲ舉クレハ次ノ如シ

鑛石		鑛		鑛石	
鉛	上塊	一・九四五%	ドーキン上鑛	四・四二%	
同	中塊	一・一〇五%	同 中鑛	二・三四%	
同	並塊	三・〇七%	同 下鑛	〇・九四%	
同	粒鑛	二・二三%			
同	粉鑛	一・八七%			

探掘坑ハ一號乃至五號坑ニシテ現今專ラ五號坑ヨリ出鑛ス外ニ探鑛坑トシテ大切中坑ノ兩坑アリ鑛石ハ手撰ノ上竹製萬斛箕揚等ノ方法ニヨリ塊粒粉ノ三種ニ選別ス本山ニテハ將來點燈鑿岩機等ノ原動力トシテ二十三馬力吸入瓦斯汽機ヲ設置セントシ其据附工事中ニ屬ス其他試錐機トシテカ

リクツス式ヲ使用ノ豫定ナリト探鑛法ハ殘柱式ニヨリ八十尺角殘柱トシ探掘ニハ爆藥ヲ使用シ鑛石ハ「エプ」又ハ「ジヨウレン」ニヨリ運搬坑道ニ運搬シ鑛車ニヨリ坑外ニ搬出セリ

金山鑛山 (大正六年十二月今泉技手巡回)

位置交通其他 本山ハ愛媛縣喜多郡出海村西宇和郡磯津村ニ互ル地域ニ在リ現在坑所ハ出海村庄野平ニ在リ松山市ヲ距ル十三里長濱町ヨリ三里硫黃灘ニ面シ道路峻嶮交通頗ル不便ナルモ海上ニハ日小蒸汽船或和船ノ便アルモ冬期間ハ海波高ク紫船ニ便ナラス時ニ其交通杜絶スルコトアリ本山ハ既ニ百八十餘年前ノ發見ニ係リ大洲藩主ノ之ヲ稼行シタルコトアリト云ヘリ明治初年再興以來經營者轉轉シ二十七年ニ至リ石原久之助ノ所有ニ歸シ爾來事業ヲ繼續セシカ四十年ニ至リ現鑛業權者三菱合資會社ノ讓受クル處トナリ今日ニ及ヘリ(本山ノ支山ニ大内鑛山アリ月産銅鑛二百三十噸内外)

鑛區ハ探掘權登錄第五七號鑛種銅鑛坪數四十五萬一千八百十四坪ナリ

地質及鑛床 綠泥片岩中ニ介在セル含銅硫化鐵鑛床ニシテ鑛床ニアリ其内一ハ略探掘シ盡シ現ニ稼行中ノモノヲ大島砲ト稱シ其走向七十度東南ニ約三十五度斜下ス其厚サ平均三尺ヲ有ス其品位乃至五%平均三%ヲ有ス一箇月ノ出鑛量十七八萬貫内外ナリ(附圖參照)

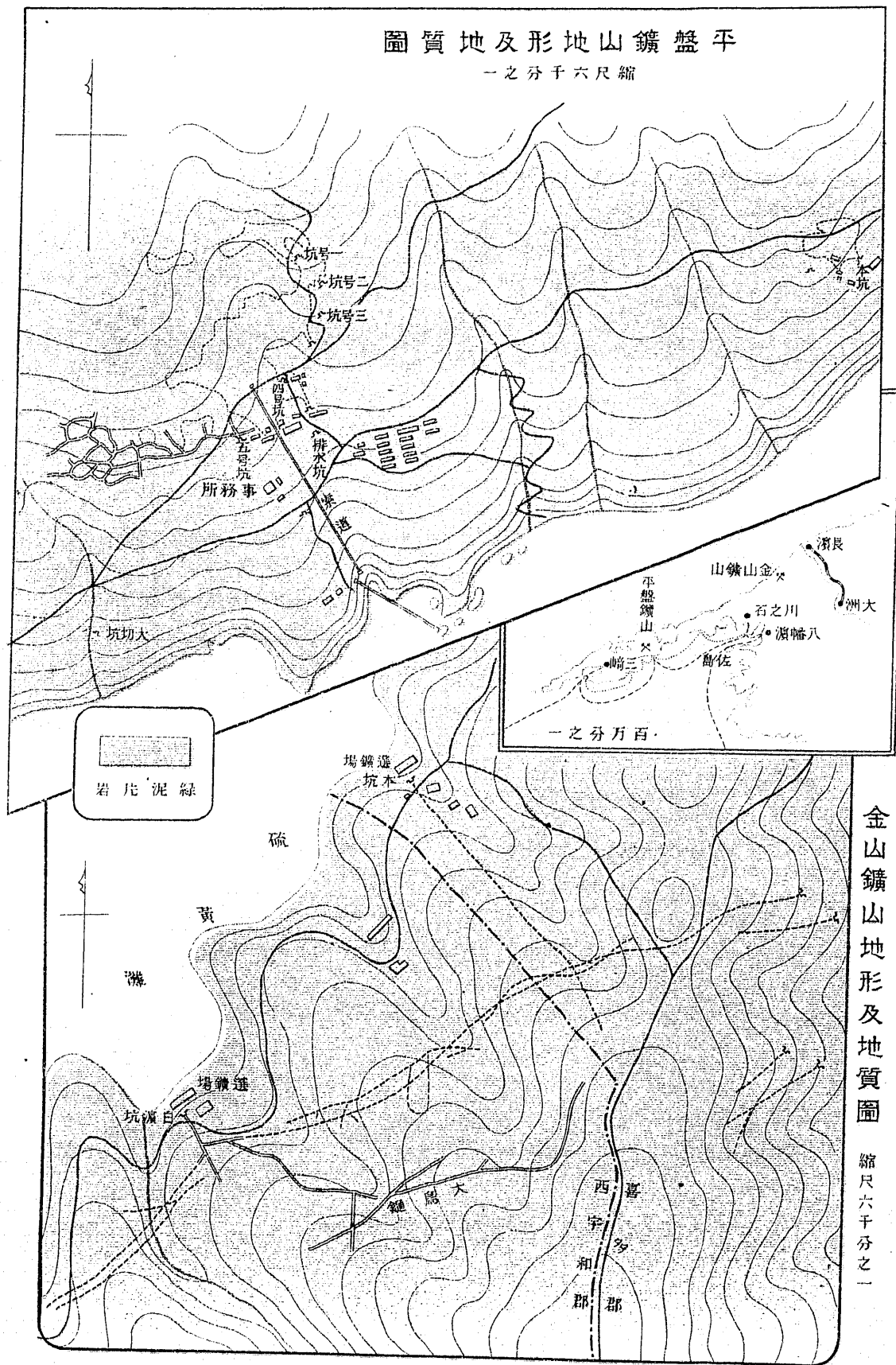
探鑛ハ總テ手掘ニシテ上下階段法ニヨリ探掘シ鑛石ハ木製鑛車ニヨリ坑外ニ搬出ス目下深部ノ運搬ニ便センカ爲メ白濱堅坑ノ掘下起業中ナリ現今使役人百七十名内探掘夫七十名ナリ

梶谷鑛山 (大正六年十二月今泉技手巡回)

位置交通其他 愛媛縣西宇和郡日土村外一村ニ互リ坑所日土村字梶谷岡ト稱スル里道ノ北方三町餘ノ處ニアリ西方一里十町ニシテ川ノ石港ニ達スルヲ「ヘク」車馬ノ交通至テ便利ナリ

平盤鑛山地形及地質圖

縮尺六千分之一



金山鑛山地形及地質圖

縮尺六千分之一

本山發見ノ時、代詳ナラサレトモ、口碑ノ傳フル處ニヨレハ、往昔住友家ノ祖先之ヲ經營シタルコトアリト云ヘリ。明治二十八年四月、酒井勇雄外三名ノ探掘權ヲ得、探掘ニ著手シ、爾來經營者轉轉シ、四十四年十二月、現鑛業權者明治製鍊株式會社ノ有ニ歸シ、今日ニ及ヘリ。

鑛區ハ探掘權登錄第一五〇號、種銅坪數四十一萬五千四百十九坪ナリ。

地質及鑛床 綠泥片岩中ニ介在セル含銅硫化鐵鑛床ニシテ、其走向三百二十度、西南二十七度傾斜ス。其厚サ平均二尺時ニ尖滅スルコトアリ。探掘ハ手掘ニシテ、殘柱式ヲ採用シ、鑛石ハ「エブ」ジョウレン等ニヨリ運搬坑道ニ運ヒ曳揚機ニヨリ坑外ニ搬出ス。曳揚機ハ五馬力ノモノヲ使用ス。坑内排水ニハ一分時揚水量二十立方呎ノ離心唧筒ニヨリ一日中八時間内外使用シ、排水ス。原動力ハ三十馬力吸入瓦斯汽機ヲ備ヘ、電燈、曳揚機、唧筒等ノ原動力ニ使用セリ。選鑛ハ手撰ニヨリ徑六分以下ノモノハ箆揚ニ附シ、選別ス。鑛石ハ叭入トナシ、荷馬車ニヨリ川石港ニ運搬シ、本山製鍊所ナル佐島ニ送ル。山元ヨリ川石港マテ百貫三十二錢ノ運賃ヲ要ス。

現今一ヶ月ノ出鑛量六萬貫内外ニシテ、其含銅品位二・五乃至五・五%ナリ。使役人八十二名内、探掘夫三十一名、其最高賃金一日一圓十錢、最低六十錢ナリ。

平岩鑛山 (大正六年十二月今泉技手巡回)

位置交通其他 本山ハ愛媛縣西宇和郡日土村字出奥ニ在リ、里道ヨリ東方五町、西方二十町ニシテ、川ノ石港ニ達スルコトヲ得ヘク。鑛石ハ荷馬車ニヨリ同港ニ運搬シ、賣鑛ニ附ス。百貫ノ運賃十錢内外ヲ要ス。使役人七十名内、三十二名ハ探掘夫ナリ。

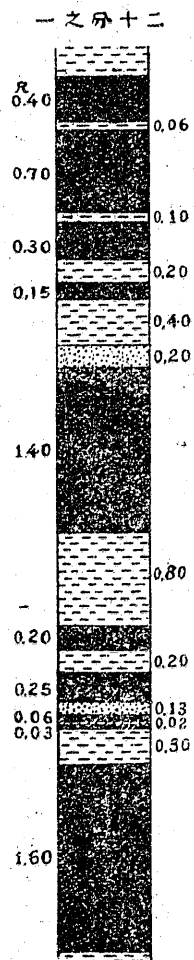
本山ハ明治二十七年十二月、矢野莊三郎外一名ノ探掘權ヲ得、三十九年五月、矢野莊三郎ノ有ニ歸シ、今日ニ及ヘリ。

鑛區ハ探掘權登錄第三〇號鑛種銅坪數十二萬六百三十坪ナリ
地質及鑛床 地質ハ綠泥片岩及紅籠片岩ヨリ成リ鑛床ハ綠泥片岩中ニ介在セル含銅硫化鐵鑛床ニシテ其走向百五十度乃至二百三十度西ニ十五度斜下ス、鑛床ハ走向ノ方向ニ尖滅シ傾斜ノ方向漸次肥大スル傾向アリ其平均ノ厚四尺内外ナリ現今一箇月出鑛量五萬貫(含銅品位平均五%)内外ナリ

久原炭鑛 (大正六年十二月今泉技手巡回)

位置交通其他 福岡縣粕屋郡久原村ニ在リテ本坑第二坑第三坑ヲ總稱スルモノニシテ福岡市ヨリ三里直方町ニ通スル郡道ノ東南一帯丘陵地ヲ占ム運炭ハ坑所ヨリ直ニ「エンドレス、ロープ」ニヨリ十町餘ニシテ九州鐵道篠栗驛積込場ニ達スルヲ得ヘシ本山ハ其沿革詳ナラザレトモ百餘年前村民既ニ之ヲ採掘シ燃料ニ供シタルコトアリト云ヘリ明治二十八年十一月岩隈重太外二名之ヲ採掘特許ヲ得其後經營者轉轉シ大正三年四月ニ至リ現鑛業權者久原炭鑛株式會社ノ有ニ歸シ今日ニ及ヘリ目下一日出炭量三百五十噸内外ヲ算ス

鑛區ハ探掘權登錄第三四三號第五一四號ニシテ總坪數四十六萬四百五十六坪ナリ
地質及炭層 地質ハ第三紀層ニシテ炭層ハ砂岩泥板岩等ト互層ス現今專ラ稼行セル炭層ハ本組層ト稱スルモノニシテ炭柱圖ニ示スカ如キモノナリ



炭層ノ走向ハ略南北ニシテ傾斜ハ十六度乃至十七度西ニ斜下スルヲ普通トス

目下探掘セル本組層粉炭ノ分析表ヲ舉クレハ次ノ如シ (九州帝國大學工科大學ノ分析ニ據ル)

水	分	揮發物	固定炭素	灰	分	窒素	硫	黃
一二三・五%		三四八・一%	四八・二六%	一四・六八%		〇・八九七%		〇・五〇四%

採炭方法ハ平掘ニシテ殘柱式ヲ採用シ各切羽ヨリ運搬坑道迄ハ橋函又ハ人脊ニヨリ搬出シ運搬坑道ニハ軌條ヲ敷設シ曳揚機ヲ以テ坑外ニ搬出ス現今本坑ニハ汽筒徑十四吋一臺、二坑ニハ十二吋一臺、三坑ニハ十四吋一臺ヲ夫夫設備セリ選炭ハ萬斛五臺其他ハ手選ニヨリ塊粉ノ兩種ニ選別ス排水ハ汽筒徑二十吋十八吋十吋ノ「エバンス」式唧筒各一臺及汽筒徑十二吋二臺十吋一臺ニヨリ排水セリ通氣ハ自然法ニヨレリ燈火ハ本坑及二坑ニ於テ「アセチリン」燈ヲ三坑ニ「クランニー」式安全燈ヲ使用セリ原動力ハ汽力ニヨリ徑七呎六吋長三十呎「ランカシャイヤ」式汽罐及徑四呎乃至五呎長二十呎乃至廿四呎「コルニツシュ」式汽罐都合八臺ヲ備フ使役人總計千名採炭夫一日賃金最高一圓四十錢最低八十錢ニシテ其支拂方法ハ切符制度ニヨリ一箇月一度之ヲ現金ト引換フ採炭夫平均一日ノ出炭額ハ〇・八噸ナリ石炭ノ販路ハ塊炭ハ船舶用ニ、粉炭ハ大阪名古屋方面各工場ノ燃料ニ供セラル

吉隈炭鑛 (大正六年十二月今泉技手巡回)

位置交通其他 福岡縣嘉穂郡桂川村外三ヶ村ニ亘リ坑所ハ桂川村大字吉隈ニ在リ南方十八町餘ニシテ筑豐線臼井驛ニ達ス現今麻生太吉ノ經營スル所ニシテ所產石炭ハ目下馬車ニヨリ前記臼井驛ニ輸送スレトモ將來「エンドレス」軌道ニヨリ運搬セントシ其設備中ニ屬ス鑛區ハ探掘權登錄第七九六號坪數百十六萬二千九百六十六坪ナリ

地質及炭層 地質ハ第三紀層ニシテ鑛區ノ南北部ニハ變質安山岩北部ニ石英粗面岩ノ露出ヲ見ル炭層ハ泥板岩及砂岩ト互層シ重ナルモノハ層ヲ數フレトモ現今稼行中ノモノハ浦田八尺、上五尺、下五尺、八尺、三尺ノ五層トス其内八尺層ハ一部燐石化セリ炭層ノ走向ハ一般ニ南北ナレトモ東南ヨリ西北ニ彎曲セリ傾斜ハ二十五度内外ナリ

用途ハ専ラ汽罐燃料ニ供セラルルモ八尺層及三尺層ハ其炭質骸炭ノ製造ニ使用セラル

採炭坑 第二、第三、第四、大浦、愛宕第一、及同第二ノ各坑ニシテ其採掘坑ト炭層トノ關係ハ次ノ如シ

第二坑 上下五尺層 第三坑 浦田八尺層 第四坑 三尺層 大浦坑 浦田八尺層 愛宕坑 第一坑 八尺層 同第二坑 上下五尺層

採掘法ハ手掘ニシテ殘柱式ヲ採用シ曳揚機ニヨリ搬出ス各坑ニ於ケル曳揚機ノ大サ次ノ如シ

第二坑 汽筒徑十四吋 第三坑 同十二吋 第四坑 同十吋 大浦坑 同十吋

選炭ハ七分目萬斛ニヨリ粉炭、中塊ノ兩種ニ選別ス而テ中塊ノ量七〇%ヲ得粉炭ハ跳汰機ニヨリ一日二百噸内外ヲ水洗ス通氣ハ自然法ニヨリ坑内湧水ハ各坑ニ夫夫排水唧筒ヲ設備ス唧筒ハ「スベシヤル」エヴンス式ニシテ其汽筒徑十二吋乃至八吋ノモノ十九臺ヲ備フ原動力ハ汽力ニヨリランカシヤイヤ」式汽罐徑七呎長三十呎二臺同徑五呎長十呎二臺同徑五呎長九呎一臺ヲ備フ目下出炭量一日三百噸内外ナリ採炭夫一日ノ採炭量〇七乃至〇八噸其平均一人賃金一圓一錢最高一圓十三錢最低八十九錢カリ目下採炭夫約三百名ヲ使役セリ

飯塚炭礦 (大正六年十二月今泉技手巡回)

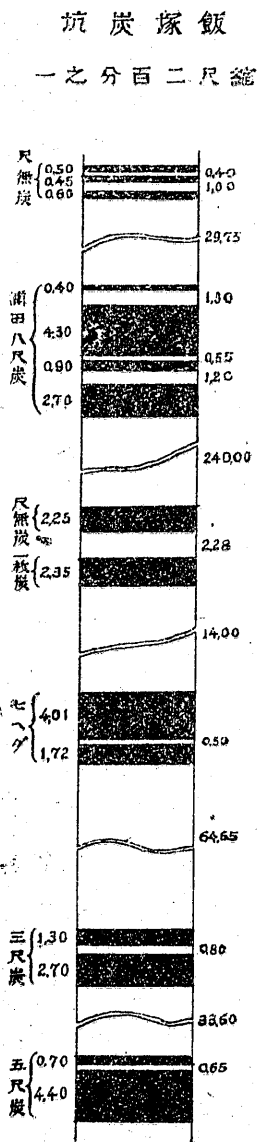
位置交通其他 福岡縣嘉穂郡穗波村大字平恒ニ在リ同郡飯塚町ノ南一里飯塚停車場ヨリ一哩半交通運搬共ニ至便ナリ本山ハ明治六七年頃平恒ノ人渡邊伊之助外二三名ニヨリテ採掘セラレシカ微

微トシテ其事業見ルヘキモノナク二十三年ニ至リ香月新三郎ノ所有トナリ始テ蒸汽機關ヲ利用シ

採炭ニ從事セリ其後經營者轉轉シ明治二十六年頃ニ至リ神崎岩藏外三名ノ所有ニ歸シ三十二年華浦銀行ノ有トナリ逐次事業ヲ擴張シ三十七年最モ殷盛ヲ極メシカ同四十年ニ至リ事業ヲ中止シ大正元年藏内工業所ニ其權利移轉シ僅ニ一部斤先掘ニ附シ採炭セルニ過キサリシカ大正五年五月現鑛業權者中島德松ノ經營スル所トナリ銳意事業ノ擴張ヲナシ今日ニ至レリ

鑛區ハ採掘權登錄第三五八號ニシテ坪數三十二萬八千五百五十一坪ナリ

地質及炭層 地質ハ第三紀層ニシテ炭層ハ砂岩、泥板岩ト互層ヲナス走向百七十度東方二十三乃至十七度斜下ス炭層ハ浦田八尺、一枚モノ、七ヘダ、三尺、五尺、磐下ノ六層ヲ數フ其内目下稼行セル炭層ハ四層ニシテ炭柱圖ヲ示セハ次ノ如シ



採掘坑 第一坑乃至第五坑ニシテ斤先掘ニ鬼山坑アリ而テ第一、第二坑ニ於テハ一枚モノ、七ヘダ、三尺ノ各炭層ヲ第三、第四坑ニ於テハ浦田八尺ヲ第五坑ニ於テハ三尺ノ各炭層ヲ採掘セリ

採炭法ハ手掘ニシテ殘柱式ヲ採用シ機函ニヨリ運搬坑道マテ搬出シ更ニ曳揚機ニヨリ坑外ニ通搬ス各坑ニ於ケル卸ノ延長及其曳揚機ノ大サ次ノ如シ

曳揚機汽筒徑 卸延長 曳揚機汽筒徑 卸延長

第一坑 十二吋十六吋 百八十間 第二坑 十六吋 二百七十間

第三坑 八吋 百六十間、第四坑 十二吋 百九十間、第五坑 八吋
選炭ハ八分目萬斛十九臺ニヨリ塊粉ノ兩種ニ選別ス一日ノ處理炭量約四百五十噸ナリ選別シタル
モノハ直ニ平恒鐵道積込場ヨリ戸畑若松方面ニ輸送ス

坑内湧水ハ各坑略二十乃至七十立方呎ニシテ夫夫排水唧筒ヲ設備ス唧筒ハ「エヴンス」スベシャル式
ニシテ汽筒徑六乃至二十二吋ニシテ總計三十一臺ヲ備フ、通氣ハ自然法ニヨレリ原動力ハ汽力ニヨ
リ「ランカシャイヤ」式徑七呎長三十呎六臺及徑六呎長三十呎同式九臺徑五呎長二十八呎「コルニツシ
ユ」式二臺ヲ備フ目下出炭量一日七百乃至百噸ヲ産ス、採炭夫一日採炭量平均一噸一分其平均賃金一
圓十五錢最高一圓六十錢最低八十錢ナリ、就業歩合五割二分乃至七割五分ニシテ平均約五割三分ニ
當レリト云フ目下使役人千四百九十名ナリ

網分炭礦 (大正六年十二月今泉技手巡同)

位置交通其他 網分赤坂ノ兩坑總稱スルモノニシテ福岡縣嘉穂郡庄内村大字網分及赤坂ニ亘リ同
郡飯塚町ノ東方一里弱ニシテ網分坑ニ達シ更ニ南方二十町ニシテ赤坂坑ニ達ス現今麻生太古ノ經
營スル所ナリ網分坑所産石炭ハ馬車ニヨリ二十四町ヲ距ル筑豐線芳雄驛ニ搬出シ赤坂坑ハ坑所ヨ
リ四百間ニシテ貨物專用鐵道ノ引込線アリ其ニ運搬不便ナラス

本山ハ七八十年前既ニ村民採掘シタルコトアリト傳フレトモ其沿革詳ナラス網分坑ハ既ニ其大半
ヲ採掘シ盡シ事業縮少ノ域ニアレトモ赤坂坑ハ大正三年一月事業ニ著手シ目下諸設備施工中ノモ
ノ多ク將來漸次事業ノ發展ヲ見ルヘシ

鑛區ハ採掘權登錄第二五八號第二五九號ニシテ總坪數五十二萬四千三百三十三坪ナリ
地質及炭層 地質ハ第三紀層ヨリナリ炭層ハ砂岩泥板岩ト互層ヲナス網分坑ニ於ケル炭層ハ五尺

炭三尺炭ト稱スルモノニシテ走向略、南北傾斜十二度内外ナリ其各炭層ノ分析ヲ舉クレハ次ノ如シ

(福岡縣鑛山監督署分析)

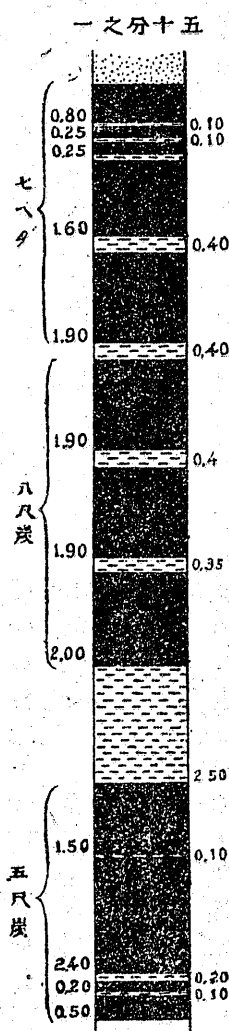
		水分	揮發物	固定炭素	灰分	硫黃	磷	比重	發熱量
五尺炭	二二六%	三八・五%	四九・六%	二二・九%	〇・三三%	痕跡	一・三五	七〇〇	
三尺炭	二四三%	五二・六%	三六・四%	八三・七%	〇・三七	同	一・三	七四〇	

用途ハ專ラ工場用燃料炭トシテ使用セラル

網分坑ハ新卸舊卸ノ二坑ヲ有シ前者ハ汽筒徑十吋後者ハ汽筒徑十二吋ノ曳揚機ヲ使用ス目下ノ出
炭一日百四十噸ヲ算ス採炭方法ハ手掘ニシテ殘柱式ヲ用ヒ穩固又ハ手押ニヨリ運搬坑道ニ搬出ス
水平坑道二百五十間ハ馬匹三頭ニヨリ運搬シ更ニ曳揚機ニヨリ坑外ニ搬出ス排水設備トシテハ汽
筒徑十六吋三臺「タービン」羽根ノ徑十二吋唧筒二臺ヲ備フ通氣ハ全體自然法ニ據レトモ局部扇風機
ヲ使用ス其容量毎分三萬立方呎ニシテ「チャンピオン」式ナリ

原動力ハ汽力ニヨリ徑五呎長二十三呎六吋「コルニツシユ」式汽罐七臺徑六呎三吋長二十三呎一吋「ラ
ンカシャ」式汽罐二臺ヲ備ヘ其他嘉穂電燈株式會社ヨリ電力ノ供給ヲ受ケ目下使役人二百十餘名
ニシテ採炭夫一人一日出炭量平均〇・九〇其就業歩合六割四分ニ當レリ採炭夫一日賃金最高二圓最
低九十錢平均一圓七錢ナリ

赤坂坑モ亦前記ノ網分坑ト同シク炭層ハ第三紀層ニ屬スル砂岩泥板岩ト互層ヲナシ次ノ炭柱圖ニ
示スカ如キ七ヘタ、八尺炭、五尺炭等ノ炭層ヲ有ス其走向百五十度傾斜東二十八度ナリ



用途ハ骸炭製造ニ適シ一般汽罐燃料ニ供セラル探炭ノ方法ハ手掘ニシテ殘柱式ヲ採用シ各切羽ヨリハ機函或ハ畚ニヨリ片盤マテ搬出シ炭函ハ手押ニヨリ捲立ニ運ヒ更ニ曳揚機ニヨリ搬出ス其汽筒徑十六吋一臺ヲ備ヘ一回ノ曳揚量四噸六分ヲ入ルヘキ炭函十二乃至十七車ヲ搬出シ得ヘシ選炭ハ一日四百噸ヲ處理シ得ヘキチンメル式選炭機及幅五尺長十尺ノ手選帶ニヨリ塊中塊粉ノ三種ニ選別シ粉炭ハ跳踏機ニヨリ水洗ス選別シタルモノハ直ニエントレスロープ軌道ニヨリ鐵道積込場ニ運搬ス若松港マテ噸當リ七十五錢ヲ要スト目下湧水量毎分二十八乃至四十立方呎ニシテ毎分二十五立方呎ヲ揚水スヘキタービン唧筒五臺ヲ備フ

通氣ハ容量毎分八萬立方呎ノギール式ニ扇風機ニヨリ通風ス原動力ハ汽力ニ依リ徑七呎長三十呎ランカシヤイヤー式五臺内一臺ヲ豫備トシテ備フ出炭量目下一日三百三十噸ヲ算ス使役人約三百四十名ニシテ一日一人ノ採炭量一噸六分其就業歩合ハ六割五分乃至七割七分ニ當レリ採炭夫一人一日ノ賃金最高二圓最低八十錢ナリ